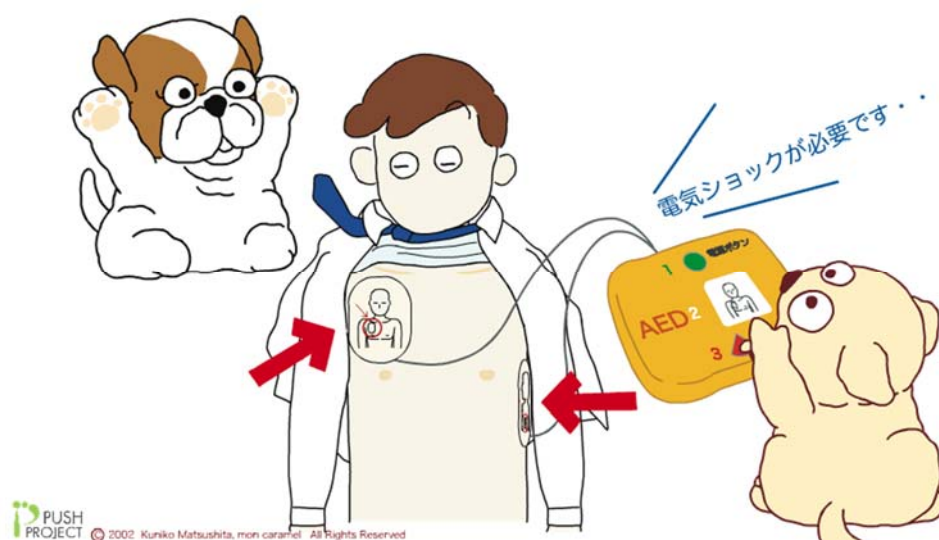


H27 年度

新入生 3000 名への救命講習会

実施報告書



2015/05/22

Ver.2

救命救急講習 ProjectTEAM 作成

目 次

I. 背景	1
II. 理念	2
III. 目的	2
IV. 方法	2-5
V. 結果	6-16
VI. 考察	16-18
VII. 救命救急講習 ProjectTEA メンバーおよび感想	18-21
VIII. 謝辞	22
IX. 参考文献	23
X. 資料	
—全体タイムスケジュールと To Do List	
—直前準備担当およびタイムテーブル	
—インストラクター用時間割	
—サポートスタッフ用手順書	

I. 背景

1. 医学的・人道的背景

日本では1年間に7万人の方が心臓突然死で亡くなっている¹。市民による自動体外式除細動器(Automated External Defibrillator, AED)の使用許可(2004年から)、市民への心肺蘇生法の普及、ならびに救急医療の発展により救命率は徐々に改善しているが、心停止に陥った人の救命率は10%にも満たない^{2,3}。心停止に陥った人を救命するためには、その場に居合わせた人による迅速な心肺蘇生の実施とAEDの使用が極めて重要であり⁴、国内には現在約30万台のAEDが設置されている⁵。(京都大学吉田本部構内には、2011年12月時点で18台設置 http://www.kyoto.ac.jp/ja/profile/safety/aed/map/documents/2011/yoshida_201112.pdf)

しかし残念ながら、心停止の現場でそばに居合わせた一般市民による心肺蘇生法が行われていた割合は30%程度、さらにAED使用に関しては、わずか2%しか使用されておらず、心肺蘇生法やAED使用ができる人を増やしていかなければならない⁶。

一方、心停止の現場において心肺蘇生法の講習会受講者は、未受講者と比べて約3倍心肺蘇生法を実施していることが報告されている⁷。また、2013年9月厚生労働省から出された「AEDの適正配置に関するガイドライン」では、AEDを使える人を教育することが強く推奨されている⁸。このことを勘案すると、入学時ガイダンスで、新入生全員に心肺蘇生法を教育することは意義あることだと考える。

人命救助の手技を学生が早期に修得することおよび、「いのち」の大事さを教育することは、「教養が豊かで人間性が高く責任を重んじる人材」を育成する京都大学の教育理念にも一致している(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/intro/ideals/basic/>)。

2. 学内での取り組みの経過

H25年8月より心肺蘇生法を全学共通科目で実施できるように医学研究科・人間健康科学において検討を行い、健康科学センター、医学研究科・初期診療・救急医学分野、国際高等教育院と連携を図り準備を進めてきた。

平成26年4月14日(月)2時間目および3時間目、スポーツ実習担当の先生方の協力のもとスポーツ実習科目の登録に参加した学生211名を対象に、登録オリエンテーション終了後、体育館であっぱくん[®]を使った45分間の胸骨圧迫のみの心肺蘇生法講習会を実施した。任意参加であったが、211名中、155名(73.5%)が自主的に参加した。「大学教育課程の中で、心肺蘇生法を学ぶ必要」と感じているものは98.7%、「定期的に心肺蘇生法を学びたい」と思うものは78.1%であった。「自分たちで心肺蘇生法を知っておくことは不可欠」「前に習ったことを思い出すことができた」「定期的に学習して、行動できるようになりたい」などの意見があった⁹。学生の反応、参加した教員の反応は良好であったが、一部の学生のみにはしか実施できないこと、体育館の音響等の設備、マンパワーの確保についての課題が出た。

その後、国際高等教育院より「全ての学生に心肺蘇生法教育を実施する」という方針が出され、課題を解決し救命講習会を円滑に実施するために、救命救急講習 ProjectTEAM を結成し関連部署と相談や調整を行った。最終的に4月に実施される新入生向けの支援機構ガイダンスの中で、救急救命講習会枠を設けてもらい、第一回目の救命救急講習会を実施することができた。

Ⅱ. 救命講習会の理念

新入生に心身の健康と命の大切さを感じ取ってもらうことを目的とした講習である。新入生全員が、CPR/AED(心肺蘇生/自動体外式除細動器)を体験しながら、救命救急について学ぶ。実際に心肺停止に遭遇した場合にも躊躇なく救命行動ができるように、心肺蘇生法の中でも一番大事なポイントを修得する。新入生は、2人ひと組のペアをつくって、協力しあいながら、心肺蘇生のトレーニング器「あっぱくん®」を使って蘇生法を体験する。

この講習会では、心肺蘇生のスキルを教えるだけでなく、自分や周りの人の命の大切さを考えるきっかけを与えること、また、1回生どうしのペアや、サポートスタッフの教員と対話しながら心肺蘇生法を学ぶことによって、社会や仲間の中での自己信頼性と自己肯定性、自己有用性を高めていけるよう配慮する。

Ⅲ. 救命講習会の目的

1. 心肺蘇生法を実施しAEDを使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに119番通報を行い、迅速に心肺蘇生(胸骨圧迫)を実施し、AEDを使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. 同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとる。

Ⅳ. 方法

H26年11月5日国際高等教育院の初年次教育委員会で、新入生向けの支援機構ガイダンスの中に救命講習会を実施することが確定してからは、新入生3000人への講習会を行うべく急ピッチで準備を進めた。

1. 対象

平成27年度 京都大学に入学予定の学部生 3,015人

2. 実施枠組みと日程

4/2(木)午後、4/6(月)午前・午後、計3回に渡って行われる学生支援機構ガイダンス(2時間20分)の時間枠のうち30分間を用いて実施した。学生数が多いので、1回あたりのガイダンスを受ける学生は約1,000人(200-300人ずつ4部屋)とした。

1)4月2日(木)15:30-16:00

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	243	243	327	179
学部	工学部 (物理工学)	工学部 (工業化学)	工学部 (地球工学) (電気電子)	工学部 (建築) (情報)

2)4月6日(月)11:00-11:30

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	228	257	341	210
学部	文学部	経済学部	法学部	総合人間学部 教育学部

3)4月6日(月)15:30-16:00

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	208	228	354	197
学部	医学部(医) 農学部 (資源生物)	医学部(人) 農学部 (地域環境) (食品生物)	理学部 農学部 (食料・環境)	薬学部 農学部 (応用生命) (森林科学)

3. 場所

吉田南 4 号館 4 共 11(1F)、4 共 21(2F)、4 共 30(3F)、4 共 31(3F)

4. 教育プログラム

1)トレーニングキット「あっぱくん®」

心肺蘇生のトレーニングキット「あっぱくん®」600 個を準備し、2 人で 1 個使用した(下記左写真)。あっぱくん®は、講習会が始まる前に、あらかじめ準備担当の教員が 600 個のあっぱくん®を机の中にセットした(下記右写真)。



2)時間割り

胸骨圧迫と AED の使い方を 1 人につき 1 体のトレーニングキットを用い、45 分間で多人数に対して指導を行う教育プログラムは、科学的検証を行い確立されている¹⁰。今回は、このプログラムを 30 分に短縮して行った。(X. 参考資料「サポートスタッフ手順書」参照)

3) インストラクターおよび、サポートスタッフ

各部屋に1名のインストラクターと、学生20名につき約1名のサポートスタッフを配置した。今回は特に対象となる学生数が多いため、インストラクターは、普段からあっぱくん®を使った講習会を実施している、熟練指導者を配置する必要があった。サポートスタッフは、人間健康科学の全ての教員、スポーツ実習の教員、国際高等教育院の教員、初期診療・救急医学分野の教員および医員でこの救命講習会に賛同してもらえる参加者を募った。

5. 準備(X. 参考資料「全体タイムスケジュールと To Do List」参照)

1) 吉田南4号館の下見

下記について、H26年12月からH27年3月まで複数回に渡って入念に下準備をおこなった

- ✓ 音響設備(音の聞こえやすさ、映像の見やすさ(特に立って実技を行うため))
- ✓ 収容人数と広さ
- ✓ あっぱくん®の配置の方法
- ✓ あっぱくん®の必要個数の算出
- ✓ 椅子や机の配置
- ✓ 教員配置の方法
- ✓ 実習を行う上での安全面への配慮(可動式の机の使用に関しては机の強度の確認)
- ✓ 各インストラクターが部屋で使用するPCと音響試験
- ✓ あっぱくん®を使ったりハーサル
- ✓ 物品の保管場所の確認(3F 308 演習室)

2) サポートスタッフの確保

20人に1名のサポートスタッフ教員が必要であり、1回講習会あたり1,000人指導するには1回あたり50人のサポートスタッフ教員を要する概算となった。人間健康科学ではこの取り組みについて教員の賛同を得て、H27年1月に専攻内の執行部会議、拡大執行部会議、教授会で全教員がサポートスタッフとして実施することの承認が得られた。H27年2月から3月にかけて、国際高等教育院、初期診療・救急医学分野でもサポートスタッフの募集を行った。

3) 手順書の作成

救命講習会に携わる全ての教員に、この講習会の理念、目的、手順をあらかじめ知ってもらうために手順書を作成した(X. 参考資料「インストラクター用時間割」参照)。初めて心肺蘇生講習会を指導する側に立つ教員、あっぱくん®を使った講習会に初めて参加する教員にもイメージしてもらいやすいように、絵や写真を盛り込み工夫をした。救命講習会の約2週間前、H27年3月19日(木)から20日(金)にかけて、全てのサポートスタッフの教員に手順書を手渡した。

また、4人のインストラクターが各部屋で講習会を行うため、インストラクターごとに教育の質が異ならないように、インストラクター用の手順書も作成した。(X. 参考資料「インストラクター用時間割」参照)

4) あっぱくん[®]講習会の実施と事前説明会

参加人数が多い人間健康科学では、まず教員自身にこのプログラムを自ら受けてもらうことが重要だと判断し、H27 年 3 月 19 日(木)10:00-12:00 専攻内の FD であっぱくん[®]を使った救命講習会を実施した。45 分間のあっぱくん[®]講習会を実施した後、あらかじめ作成した手順書の内容を丁寧に説明した。

人間健康科学以外の教員に関しては、チームメンバーの西山が可能な限り直接手順書を持参して個別に説明を行った。時間の都合上、全ての教員には実施できなかった。

5) あっぱくんの確保と配備

①確保

学生数および教室の机の配置から、1 回あたりの講習会で平均 560 個のあっぱくん[®]が必要であることがわかった。学内には、研修センターに 200 個、健康科学センターに 100 個、国際高等教育院には 50 個のあっぱくんがあったが、250 個が不足していた。最終的には国際高等教育院で、追加 250 個を購入していただき、無事に 600 個確保できた。

②配備

H27 年 4 月 1 日(水)および、4 月 5 日(日)に、準備係の教員を中心にあっぱくん 600 個を 4 部屋の机の下にあらかじめセットした。

当日、学内 3 ケ所のあっぱくんを使用するため、紛失や混同が生じない 600 個全てのあっぱくん[®]に所属を表すシールを貼った。

6) 配慮した点

①救護室の設置

慣れない環境で、緊張しながら長時間のガイダンス等を受けている学生の中には、体調不良を起こす学生が出るかもしれないと予測した。そこで、4 共 14 の部屋を救護室とし、救急箱の準備、車いすの準備、簡易ベッド、布担架などを準備しておいた。

②学生の安全・体調への配慮

実習を伴う講習のため、体調不良のみならず怪我が生じる可能性を想定した。体調不良も含め、無理に実習を継続させず、必要時には退出しても構わないことを教員に事前に周知した。また、各部屋にいる人間健康 看護コースの教員は、「救護」としての役割も担ってもらった。

③吉田南 4 号館にある AED 設置場所・避難経路の周知

吉田南 4 号館にある AED 設置場所と避難経路については、手順書および当日の説明会で周知した。



講習会直前のサポートスタッフへの事前説明会の様子

V. 結果

まず講習会の流れについて、写真等を用いて概要を説明する。

メッセージ ビデオ	・講習会を始める前、心停止で子供を亡くされた親御さんたち、心停止から生還された方たち協力のもと作成した、約5分間のメッセージビデオを視聴し、なぜこの講習会を学んでもらいたいのか、動機づけを行った。 ・学生は真剣な眼差しで見ていた。 ・中には泣いている学生もいた。(教員も泣いていた)	
あっぱくん® の準備	・偶然隣り合わせになった同級生2人でトレーニングのためのあっぱくん®を使うことを説明した。 ・お互い知らない人同士のため、緊張し、遠慮しながら、机の下に置いておいたあっぱくん®を取り出し二人での準備をしていた。	
実習開始	・自分の身体に触れて、脈拍の確認。生きている証を改めて感じてもらう。	

実習の 進め方	・DVD を見て一旦止めて実習。また DVD を見て実習、この繰り返りで講習会を行った。 ・学生たちは、DVD を見ながらよく笑っていた。 ・講義室の後ろや、通路に立っているのが、サポートスタッフの教員。 ・教員たちも楽しそうな表情が見られた。 ・通路をよく歩き、いろんな学生に声を変えている姿が見られた。ただ立っているだけの教員は誰もいなかった。	   
--------------------	--	--

胸骨圧迫	・あっぱくんを使って胸骨圧迫の練習。結構強く押さないと止まってしまった心臓の代わりに血液や酸素を全身に送ることをできないことを説明した。 ・しっかり押せているか、隣の学生が確認していた。音が鳴っているか？ ・疲れてくるので、「(しっかり押して)がんばれー、がんばれ！」と励ましている様子。	  
AED の 使い方	・あっぱくん®に含まれている紙 AED を、二人で協力してあっぱくん®に貼っている様子。うまく貼れているかお互い確認しながら行っていた。	 

1. H27 年 4 月 2 日(木)15:30-16:00(1 回目)

1) 学生数とその背景

このガイダンス対象の予定入学者数は 992 人であり、924 人からアンケートの回収ができた(回収割合 93.2%)。834 人(90.3%)が男性であった。

2) 教員数

インストラクター数 4 人

(社会健康 1 人、人間健康科学 1 人、環境安全保健機構 1 人、外部講師 1 人)

サポートスタッフ数 65 人

(人間健康科学 48 人、スポーツ実習 8 人、国際高等教育院 4 人、救急医学 5 人)

2. H27 年 4 月 6 日(月)11:00-11:30(2 回目)

1) 学生数とその背景

このガイダンス対象の予定入学者数は 1,036 人であり、802 人からアンケートの回収ができた(回収割合 77.4%)。532 人(66.2%)が男性であった。

2) 教員数

インストラクター数 4 人

(社会健康 1 人、人間健康科学 1 人、環境安全保健機構 1 人、研修センター1 人)

サポートスタッフ数 69 人

(人間健康科学 55 人、スポーツ実習 4 人、国際高等教育院 4 人、救急医学 6 人)

3. H27 年 4 月 6 日(月)15:30-16:00(3 回目)

1) 学生数とその背景

このガイダンス対象の予定入学者数は 987 人であり、787 人からアンケートの回収ができた(回収割合 79.7%)。534 人(67.9%)が男性であった。

2) 教員数

インストラクター数 4 人

(社会健康 1 人、人間健康科学 1 人、環境安全保健機構 1 人、研修センター1 人)

サポートスタッフ数 63 人

(人間健康科学 52 人、スポーツ実習 3 人、国際高等教育院 3 人、救急医学 5 人)

4. 学生アンケート結果

1) 本学入学前の教育課程における、心肺蘇生法および AED に関する教育歴

アンケートを回答した学生のうち 21.2%が、心肺蘇生法および AED の使い方に関する教育を受けていなかった。実技を伴う授業を受けていたものは、約 60%であった。

問 1. これまでに、心肺蘇生法や AED の使い方の講習会を受けたことがありますか？

	n=2513	%
トレーニング人形を用い、 実技をとまなう実習形式の授業	1446	57.5
講義のみの授業	499	19.9
今回初めて心肺蘇生法の授業を受けた	533	21.2

問 2. 今まで講習会を受けた方は、どこでその講習会を受けましたか？（重複回答）

	n=1945	%
小学校	164	8.4
中学校	914	47.0
高等学校	1415	72.3
運転免許取得時	31	1.6
その他	89	4.6

2) 今回の取り組みについて

約 90%の学生が、ガイダンスで救命講習会を実施することに有意義だと感じていた。

問 3. 入学オリエンテーション時に、心肺蘇生法のプログラムを行うことをどう思いますか

	n=2513	%
有意義だと思う	1707	67.9
どちらかというとき有意義だと思う	569	22.6
どちらとも言えない	117	4.7
どちらかというとき意味がないと思う	22	0.9
意味がないと思う	20	0.8

「意義がない」と回答している学生の自由記載欄には、「いろいろすっぺらかった。」「知ってることが多く、つまらなかったです。」「長いガイダンスの中でやらなくてもと思った。」「ビデオがふざけすぎ。」と記載されていた。

問 4. 心肺蘇生法や AED の使い方を定期的に学びたいと思いますか？

約 70%の学生が、定期的に学びたいと思っている。

	n=2513	%
とても思う	651	25.9
どちらかというとき学びたいと思う	1078	42.9
どちらとも言えない	513	20.4
どちらかというとき学びたいとは思わない	146	5.8
全く思わない	72	2.8

問 5. サポートスタッフの教員や周りの新入生と講習会中 1 回でも話をしましたか？

約 80%の学生が、周りの教員や新入生と話をしていたと回答した。

問 6. サークルなど活動中に仲間の一人が急に倒れた場合、あなたがすべきことは何ですか？(寄せられた 2513 名からの一部抜粋)

回答割合:95.1%

- ・今日学んだ通りの手順で救命措置を積極的に行う。
- ・今日習ったことを生かす。
- ・率先して助けに向かう。
- ・率先して心肺蘇生を行う。
- ・助けを呼んで AED と 119 番を要請、胸骨圧迫を行う。
- ・意識確認→119 番と AED→呼吸確認→心臓マッサージ→AED→心臓マッサージ。
- ・まずは、他の仲間に救急車と、サークルなどの代表(責任者)を呼びに行かせ、自分はその場で倒れた人の意識・状況を冷静に確認する。
- ・まず、仲間の状態を見て判断し、119 に電話する。そして救急車が来るまでの間、今、自分が仲間のためにできることをする。"
- ・119 番と AED お願いします→胸骨圧迫→AED。
- ・119 番と AED を周囲の人に要請し、胸骨圧迫を行いつづける。AED の指示に従う。
- ・とりあえず声をかけ、反応がなかったら呼吸を確認し、本日の構義で学んだことを実践する。
- ・周の人を集めて 119 を呼ぶ指示と AED を持ってくる指示をし、胸骨圧迫を続ける。
- ・周囲の安全確認→大丈夫ですか？→119 番と AED お願い→心臓マッサージ→AED

問 7. 周りの人が倒れた時のために、日ごろからやっておくべきことは何ですか？

(寄せられた 2513 名からの一部抜粋)

回答割合:87.2%

- ・AED の指示に従うだけで難しいことはないなので気負わない、自分でもできると知っておく。
- ・勇気を持って声をかける。
- ・AED がある場所を確認しておく。
- ・胸骨圧迫や人工呼吸の方法を覚えて、できるようにしておく。
- ・定期的に心肺蘇生法を学ぶ。
- ・自分は救命措置がわかる、という自信をもてるまで、蘇生法をきちんと覚える。
- ・こういうことが身のまわりで起こりうるという意識を持つ。
- ・このようなことにふれる機会をもつ。
- ・倒れている人を無視しない
- ・知らない人とでもコミュニケーションがとれるようにしておく"
- ・日頃から知らない人、困っている人に声をかけられるようにしてすと。
- ・常に危機意識をもつこと。
- ・他人に無関心にならない
- ・完璧にこなせずとも一つでも二つでも行う意識。
- ・自分でも救える命があるということを心に留めておく！
- ・見て見ぬふりをしない。

- ・迷うより行動。
- ・倒れている人がいたら、近付くことをためらわないこと。
- ・コミュニケーション能力をきたえる。
- ・何ごともおじけづかず積極的にこうどう。
- ・自分も社会の一員であることを自覚し、その社会に貢献すべきであることを強く意識する。
- ・スマートフォンを常に携帯する。
- ・突然死が自分たちの周囲で起こりうる出来事だという認識を深める。
- ・周りへ気配りを心がけ、倒れている人がいたら気づけるようにする。
- ・率先に動くようにする。
- ・自分でも人を救うことができるという気持ちをもっておく。
- ・健康に気づかう
- ・先生(大人)の居場所の把握。
- ・大きな声を出す勇気を養う。
- ・少しでも、体調が悪くて、つらそうな人に、声をかける
- ・具合の悪そうな人に対して話しかけることを恥ずかしがらないこと
- ・「自分がやること」としてとらえること
- ・講習以外でも、自分から、積極的に、救急時の対応について学ぶ。
- ・社会の一員であることを自覚し、心遣いと思いやりを大事にする。
- ・不健康な友達に、きちんとした食事をするようすすめる。
- ・電話帳に 119 を加える。マニュアルを作る。
- ・定期的に今回のガイダンスの内容を振り返る。

問 8. 救命講習会を受けた感想

(寄せられた 2513 名からの一部抜粋)

回答割合: 80.8 %

- ・急に目の前で人が倒れたときに対処できる自信がなかったけど、今日講習を受けて、少しでも人助けができるように、やることを頑張ろうと思いました。
- ・高校でやったけれど忘れかけていたことを思い出せて良かったです。
- ・心臓マッサージや AED はもっと難しいと思っていたが実際そうでもなく、受けることができてよかったと思う。
- ・隣の人と協力しながら講習して、大いに勉強になった。
- ・親しみやすい講習で楽しく学べた。
- ・人を助けたい。
- ・中高で講習が無かったのでとても有意義でした。
- ・自分の行動で救える命があるかもしれないということがわかった。
- ・初めて道具を用いて救命練習をしたので、具体的なことがわかって良かった。
- ・ペアを組んで行ったので楽しかった。
- ・勇気を出して、命を救いたい。

- ・大学での部活は学生だけで活動することがほとんどなので、入学前に AED の使い方を学ぶことは大切だと思った。
- ・自分も含めて AED への幅広い知識がもっと広がるといいと思いました。
- ・勇気を持って行動できる人間になりたいです。
- ・見知らぬ人でも、今日の講習を生かして救命できるようになれば良いと思った。
- ・AED の使い方がおもったよりかんたんだった。
- ・隣の席の人の協力して救命作業をでき、実際の講習になったと思う。
- ・自分が実際に人を救わなければならない場面に遭遇することもあるということがよく分かった。そのときは、絶対に勇気を出して行動しようと思う。
- ・和やかな空気が進み、受けやすかった。
- ・受けたことがなく、このままでいざという時大丈夫なのかと思うことが度々あったが、今回の講習を受け自信になった。
- ・人工呼吸についても学びたいと思った。
- ・今まで実際に胸骨圧迫などを行う救命講習を受けたことがなかったので、今回の体験はとても貴重なものでした。これからは機会があれば参加したいです。
- ・死にたくないなと思いました。
- ・責任をもって救命活動を行うべきだと思った。
- ・このような救命方法を勉強したら人を救えるかもしれない、とても意義ある授業だと思う。
- ・一人暮らしを始めて、健康が気になり始めた頃だったので、とてもためになった。
- ・自分の行動で生死が決まってしまうことがあると分かった。
- ・素人の自分達でも助けられる命があると分かった。
- ・こういう講習会は大切だと思ったし、定期的開催してもらえるとさらによいと思う。。
- ・もう少し筋肉をつけなければと思った。
- ・自分の行動で救える生命があるのならば、勇気を出してがんばってみようと思いました。
- ・命の尊さを改めて感じた。一方で自分の年齢(58 才)を考えると極力他人の世話にならないよう日頃から健康に留意したい。
- ・救命作業の手順をマニュアル化して、小さな紙に印刷したものを配布し、携行を促すべきであると考えた。
- ・難しいことをするわけではないので、一通り流れを確認できただけで十分意義があった。
- ・難しいことではなく簡単なことでも、命を救う手助けになるのだと分かり是非実践したい。
- ・高校でも講習は受けたが定期的に使い方を反芻することはとても有意義だと思う。
- ・AED の使い方は1度知ると誰でも簡単に使えるので、日本でもっと講習を受けた人が増え亡くなる人がいなくなるように全員が他人事と考えることが大切だと感じた。
- ・人の命は尊いもので、非常に価値ある講習を受けられたと思う。
- ・一人一人が対応の仕方を知っているか知らないかで全然違うということがわかった。
- ・自分は救命講習を受けた経験があるから教える側に回りたかった。

5. 体調不良の学生

3回の救命講習会中2人の体調不良の学生がおり、うち1人は救急車を要請して京大病院へ搬送した。下記に2人の様子を記載する。

1)4月2日(木)15:30-16:00 (4共30)

メッセージビデオ終了後、「先生、気分がわるくなっています」とその学生の近くの友人が走ってきた。座席にいくと、座席から半分落ちかけている状態でうずくまっていた。この時点で声をかけたが、反応はなく手を挙げて周囲の教員を呼んだ。この間に意識が回復、脈は問題なかったため座席に横にさせた。その後、少し話せるようになってきたが、頭痛を強く訴えていた。しばらくすると、「この手(ビデオ)が苦手で」と本人が話したので、そのまま様子を見て、自分で起きることができたあと、救急部の医師に付き添われ救護室へ移動した。

救護室で、休んでいるうちに体調は回復。友人と無事に会えるか心配するぐらいの余裕もできて、ガイダンス終了とともに帰宅した。

2)4月6日(月)11:00-11:30(4共30)

11:00 過ぎに法学部の男子学生1名が気分不良を訴えた。そのためサポートスタッフ(佐藤医師)が、学生に臥床するように促した。同時に救護担当スタッフ(看護師)が予め準備していた車椅子を会場に手配した。その車椅子を使用し、学生はサポートスタッフ(佐藤医師)救護担当スタッフ(看護師)および本部から駆け付けた黒木の3名で本部(4共14)に搬送された。本部の床に、予め準備していた毛布を敷き、枕を使い、学生を臥床させ、症状が改善するか見守った。しかし気分不良が改善しないため、佐藤医師の意見を参考に、黒木が最終判断を下して11:19に119番連絡し救急車を要請した。なお、学生は翌日まで入院したということなので、この判断に間違いはなかったと確信している。

救急車のサイレン音が近くに聞こえたことから、救急車は通報後5-6分程度で京都大学キャンパス周辺に到着していたものと思われるが、サイレン音が近づいたり遠ざかったりしていたことから、おそらく吉田南4号館の建物がわからずに周辺をグルグル回っていたようである。幸い、東大路側の南通用門まで、救急車誘導に走っていただいた事務の対応で救急車は吉田南4号館に誘導されたが、京大周辺に到着していながら現場到着までに更なる時間を要したことは、救急車誘導における課題を残したと考える。こうした課題は今後早急に改善されるべきであるが、今回のケースは、重篤な外傷や心停止等、生死に関わる事態ではなかったため大事にはいतरなかったことが幸いであった。また本部で気分不良の当該学生に対応したサポートスタッフが救急部の佐藤医師であったことも幸いし、救急車到着が遅れた場合でも、適切な対応ができていたと考える。

佐藤医師は到着した救急車に同乗し、気分不良の学生を見守った。救急車はすぐに京大病院救急部に学生を搬送した。搬送された学生は、迷走神経反射、緊張による不安感などによる身体症状と診断された。夕方になっても起き上がるとやはりふらついてしまうことがあり入院となった。学生は、入学式に参列する目的で埼玉県から京都に向かっていった母親と京大病院で面会し、翌朝元気に退院してそのまま入学式に無事に参加することができた。

6. サポートスタッフとして参加した教員のコメント

良かった点	内容
1. 全体の印象	・いい取り組みだった。 ・京大の教養教育、健康教育としても、貴重な内容だった。 ・サポート教員は、よく声をかけていたと思う。 ・今回のような救命講習は、飛行機に搭乗した時の、最初の安全指導と同じような意義があるだろう。実際に事故が起こる確率は低いとしても、安全意識を高め、それがひいては、事故が起こる確率そのものを低くすることにつながるのではないかな。 ・プロジェクトチームが贈るこれから4年間への応援メッセージに共感した。 ・来年度も是非継続して欲しい。 ・あそこにいた、キラキラした目をした学生さんたちが、さらに何回日も大きくなって社会に羽ばたいて行ってくれることを願う。
2. プログラムの目的	・新入生ガイダンスに実に相応しいものだと感じた。 ・技術を的確に教えることも重要だろうが、そのような技術習得の前に、どういう状況で何をすればよいのか、ということを知ることが大事。その点で、今回のこの講習は、時間が短く技術講習としては十分ではなかったとしても、心停止の場面に遭遇したとき取るべき行動は何か、ということを確認に知ることができてとてもよかった。 ・救命講習の場合には、この講習の経験そのものが、例えば、自分や友だち、家族の健康や生命を大事する感覚を養うことにつながるのではないかなと思う。
3. 学生の様子	・みなさんよく参加してくれていたお陰だと思う。講習後に気持ちの良い自然な拍手が湧き起こっていた。 ・学生さんたちも最初は表情が硬かったようでしたが、実習に入るとつれて、熱心な顔で、でも、和気藹々と取り組んでいたのが印象的であった。 ・学生たちは、和気あいあいと講習に参加していた。
4. プログラム構成	・実際に AED の使い方の講習を受けることができる機会は貴重。 ・4つの会場に、それぞれインストラクターとサポート教員が張り付いて、ライブでできたことも貴重なことだった。 ・モニター映像だけの段階から、このライブの救命講習を受けて、一変したという印象をもった。 ・入学式の前に、こうして仲間と一緒に体を動かす機会をもつのは、とてもよいことだと思う。 ・ビデオがとても良かった。

5. 教員自身への効果	・教員にとっても、必要な講習ではないかと思った。 ・教員が生き生きとしておりそのこと自体が、新入生たちに、明るい励ましのようなもの、大学生活をのびのびと、しっかりと楽しんでいく力を与えたのではないか。 ・次年度、他の教員にもサポートスタッフとしての参加を勧める。 ・他の部局との教員との貴重な交流の機会になった。 ・教員相互、また新入生と教える、支えることの意義を感じた。 ・自分の部局の AED 設置場所も、今一度、確認しておかねばならないと思った。 ・学生さん以上にこちらが動機付けされた。救える命は救わないといけないと強く思った。 ・学生に助けってもらうことになるかもしれませんので、学生たちにもしっかり救命の方法を身に付けてもらいたい。
改善点	内容
1. ハード面	・長い机のため中央付近の学生には、声がかけれなかった。 ・教員が担当する座席割を検討する必要がある。 ・AED マップが欲しい。 ・あっぱくんの箱の開け方を指導しないと、間違った使い方をしている学生がいた。
2. 救護面	・体調不良の学生が出た時、救護にあたった先生の担当学生サポートをどうするか、明確に指令系統を決めておく必要あり。 ・各部屋に救急部の医師を配置することはできないか。
3. ソフト面	・教員は、学生によく声はかけていたが、話をする余裕はなかった。 ・学生の名まえを知らないまま進めたので、声をかけるときにも、「キミキミ…」と言わざるをえなかった。 ・学生同士も、「がんばれ～」などの声かけはしていたが、「話す」というところまではいかなかったのではないか。

VI. 考察

全新生を対象に、心肺蘇生法を教育する取り組みは、知る限り国内において実施されておらず、京都大学で初めて行われたものと思われる。今回、京都大学に入学する新入生に対して、心肺蘇生法や AED の使い方のスキルを伝えるだけではなく、「いのち」の尊さを目的におき講習会を実施したことは、社会に出る最後の教育機関として、とても重要な社会的に責任を果たしたのではないかと考える。京都大学がこのような先駆的な取組を行うことの社会的意義、インパクトは大きく、今後この取り組みが広く普及することを期待する。

1. 学生への教育効果

2015 年度の新入生は 3015 名である。当日、何名が救命救急講習会に参加したか正確な人

数は不明であるが、得られた 2500 名からのアンケート結果、約 90%の学生が、ガイダンス行った救命講習会を有意義だったと感じていた。自由記載欄にあったコメントから、いのちの大切さ、尊さ、自分で助けられるいのちがあることを知り、学生が救命救急について関心をもったことがわかった。ProjectTeam の目標の一つ「心肺蘇生法を実施し AED を使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。」は、多くの学生に届いたのではないかとと思われる。人が一生涯を通して、心停止に遭遇する確率はそう高くないと考えるが、いざという時に心肺蘇生法や AED を使えるように、「いのち」の大切さを感じ、困っている人を助ける心、そんな心優しい豊かな人間性を兼ね備えた人材育成に繋がる取り組みだったのではないかと考える。

入学前の講習会受講歴をみると、約 60%の学生は、実技を伴う授業を受けていたが、20%は救命講習会を受けたことがなかった。中学・高等学校の学習指導要領に「心肺蘇生」は学習内容に含まれているが^{11,12}、実技をとまなう授業形式は必須ではない。そのため、本学に入学する前に、今回のように心肺蘇生法について教育を受けていない学生が存在する。社会に出る最後の教育機関である大学において、心肺蘇生法の教育を実施することは、社会に新しい人材を送り出す機関として非常に責任のあることだと考える。

また中学・高校で実技教育を受けていたとしても、自由記載欄でもあるようにその手技を忘れてしまっていることを学生たちも自覚しており、心肺蘇生法の手技は時間とともに減衰することが過去の研究でも指摘されている¹³。心肺蘇生法ガイドラインでは^{13,14}、心肺蘇生法のスキルを維持するために、繰り返し講習会を受講することが肝要であると指摘している。約 70%の学生は、心肺蘇生法の方法を定期的に学びたいと思っており、さらに人工呼吸の方法を学びたいと思っているものもいた。今回の講習会による学生のスキルの習得度については評価してないので不明だが、今後学生たちが定期的に学習できる機会、さらに詳しい救命処置の方法を学ぶ機会を検討する必要がある。

2. 教員への効果

当初、参加する教員への効果はあまり考えていなかったが、講習会中の教員の関わり方、講習会後のすがすがしい顔、笑み、講習会後のコメントから、教員にとっても意義のある取り組みになったと考える。講習会を実施する前に、手順書や直前の打ち合わせで、今回の講習会の理念、目的、を共有できたことも良かったのではないかと考える。さらに、一生懸命講習会に取り組んでいた新入生の姿をみたり、一緒に講習会を受けることで「いのち」の尊さ、その教育の必要性を再認識できたのではないと思う。教員自身、心肺蘇生法や AED について関心が高められ、心停止はいつ、どこで、誰にでも起こりうることであり、「明日は我が身かもしれない」という意識をもって、自分自身の健康管理にも取り組んでもらえることを期待している。

3. 期待される今後の成果と今後の課題

胸骨圧迫と AED の使い方を指導した学生に対しての真の教育効果は、学生が心停止現場に遭遇した際に心肺蘇生法や AED を使うことができるかどうかで評価できる。今後、今回指導した学生が、心停止現場のみならず困っている人に遭遇した際には、一人での多くの学生がこの講

習会のことを思い出し、勇気をもって行動を起こしてくれることを期待している。

胸骨圧迫やAEDの使い方は、時間が経つと忘れてしまうため、定期的に心肺蘇生法講習会を受講し、そのスキルの維持に努めてもらいたい。そのためには、学内で何らかのサポートが必要であると考えている。また、今回講習会を受講して、救命講習会に興味を持った学生が次年度の新入生に指導をする仕組みづくりも検討したいと考えている。さらに、心停止をはじめとリスクがある運動部の学生、科学実験を行う学部学生には、今回の内容のみならず、ケガの応急処置の仕方、熱中症への対応、救急車を呼ぶ判断なども学ぶ必要があると考えている。

今回の取り組みの情報発信を行うことで、他大学、他の教育機関での心肺蘇生法教育のモデルになるように、教育プログラムの内容等は共有し、日本全国に普及できるモデルづくりを検討していきたい。

次年度以降も講習会を継続させるための組織体制、学生のフォローアップシステム、トレーナー・インストラクターの育成、そのための予算化が必要と考える。そのためにも、救命救急講習ProjectTEAM、国際高等教育院、環境安全保健機構、医学研究科などの関連部局が緊密に連携を取っていくことが重要である。

VII. 救命救急講習 ProjectTEAM メンバーおよび感想

今回の救命講習会は下記の ProjectTEAM メンバーによって企画・運営・実施された。

1. 救命救急講習 ProjectTEAM メンバー

チームリーダー	馬場正昭（理学研究科・化学専攻・教授）
サブリーダー	黒木裕士（医学研究科・人間健康科学系専攻・教授）
チームメンバー	川村 孝（環境安全保健機構・健康管理部門・教授）
チームメンバー	石見 拓（環境安全保健機構・健康管理部門・教授）
チームメンバー	小池 薫（医学部附属病院 初期診療・救急科・救急部・教授）
チームメンバー	内藤知佐子（医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター・助教）
チームメンバー	田中真介（国際高等教育院・准教授）
コーディネーター	西山知佳（医学研究科・人間健康科学系専攻・講師）

2. 感想

理学研究科 化学専攻・馬場正昭

実際に講習に参加していろんなことを感じ、私自身も多くを学びました。何よりも印象に残ったのは受講した3000名の新生の瞳の輝きでした。身近な人が病で亡くなるという事実と向き合うことから始まり、仲間とともに生命を救うスキルを学ぶ。そこに悲壮感が満ちていては積極的な行動がとれないので、教える方も学ぶ方も楽しみながらプログラムを進めていく。限られた時間の中に多くの要素が凝縮されていて、笑顔と感動に包まれた清々しい講習ができたというのが率直な感想で、力を合わせて頂いた皆様に深く感謝します。

最も重要な役割を果たしてくれたのが、サポートスタッフの皆さんで、受講者への声掛け、会話、スキンシップ。普段はためらいがちになることが自然にできていて、教室内の一体感、終わった後の達成感は、言葉では言い尽くせないくらい大きな感動でした。教える側も多くのことを得た

貴重な体験になったと確信しています。

締めくくりとして掲げたいのが、どのようにしてこの活動を継続していくかということです。ProjectTEAM が目指していたのは、心技体を通して人間力をつける複合教育プログラムであり、それは、体で心臓の鼓動と温かみを感じる、心で生命の大切さを知る、人を救う技を学ぶ、それぞれがバランスよく融合された講習内容を創ることでした。今回の講習でかなりの部分が実現できたと思います。ただ、これから大切なのは、義務とか責任とかではなく、自主的にやるという意識でしょうか。それがもっと定着したら、無理なく自然に今後も救命救急講習を続けていけると考えています。今回はチームリーダーとして何としても成功させなければならないという意識が強くて、多くの方に迷惑をかけてしまったことが私自身はとても悔しく、これからはチームメンバーと一緒にいつも笑顔で学生の後押しを続けていきたいと思っています。

医学研究科 人間健康科学系専攻・黒木 裕士

新入生 3000 人への救命救急講習会が無事に終了し安堵するとともに、とても感慨深く思います。

H25 年 8 月に現代社会適応科目群部会において、この講習会を医学部人間健康科学科が中心となって企画し実施することはできないか、と要請を受けてから1年8か月、当初はスポーツ実習の第1回目授業時に行う計画だったものを新入生全員に向けた企画に練り直しました。

これまで健康科学センター長の川村孝教授、医学研究科・初期診療・救急医学分野の小池薫教授と連携し、国際高等教育院の馬場正昭教授と相談し、医学研究科・人間健康科学系専攻の西山知佳講師が中心となって練り上げた企画を、健康科学センターの石見拓教授、国際高等教育院の田中真介准教授、医学部附属病院総合臨床教育・研修センターの内藤知佐子助教が中心的メンバーとなって確認、修正しました。その結果、当日アシスタントとして、医学研究科人間健康科学系専攻の教員は原則として全員、同専攻の大学院生もボランティアとして、また国際高等教育院から多くの教員が、そしてスポーツ実習担当の非常勤講師も参加するという、とても大きな取組となりました。私の知る限りでは、国内の大学において新入生全員にこうした講習会の取組を行った例はないと思います。

高等学校を卒業して初めて大学において学問や実践に触れようとしている新入生は、4月初旬に、これから全学共通科目を履修し、学修の意欲を高め、かつ教養を広め、その後の専門領域を修めようとしています。この時期に救命救急講習会において心身の健康と「いのち」の尊厳を再確認する機会を持つことはとても意義あることだと思います。講習会は尊い「いのち」を救うという実践を体験するだけでなく、自分自身の「いのち」に、これから学問と実践の体系を涵養するという、新入生の強い動機づけに繋がることになると考えます。今後、本取組が益々発展し、京都大学だけでなく国内のすべての大学に拡大することを祈念します。

環境安全保健機構・健康管理部門・川村 孝

壮大な計画が無事終了し、安堵しております。今回の大講習会を企画・運営された関係者の皆様に敬意と感謝を表します。

心肺蘇生術をしなければならない状況に遭遇することは稀ですが、生死を分ける場面だけに、

将来の社会的リーダーたる京大生が基本的素養の一つとして身につけてくれれば…と常々思っていました。2000 年ごろより全学共通授業の一コマにはしてきましたが、受講者数に限りがありました。今回の講習は、一度に 1000 人、よくできた DVD を使って心マと AED という基本動作のエッセンスを教えるという構成であり、30 分という短い時間ながら命に向き合い、躊躇しがちな救助活動に勇気をもって臨むきっかけになるものでした。大学に入って最初の“洗礼”として一生忘れないものになったと思います。受講する新入生も、サポートする人間健康科学科や病院救急部はじめ多くの教職員の方々も、真剣かつ生き生きした表情をしておられ、とても嬉しくなりました。

今回受講した学生が復習プログラムでスキルを補強し、次年度にはサポートチームに加わってくれることを期待しています。

環境安全保健機構・健康管理部門・石見 拓

心肺蘇生の普及啓発活動をライフワークにしている私にとって、全新生を対象とした心肺蘇生講習会は大げさに言うと夢の一つであり、とても貴重な体験でした。まずは、本企画の実現にご協力くださった皆様に感謝します。今回の企画に参加し、真剣かつ楽しそうに周囲の新たな仲間や教員達と心肺蘇生を学んでいる新入生の姿を見て、この企画の素晴らしさを肌で感じる事ができました。心肺蘇生の教育には、単に技術を学ぶだけでなく、命の大切さ、共助の精神、連帯感、自分たちにできることがあるという自己有用感を感じるなど、複合的なメリットがありますが、新入学のこの時期にその場を提供するのはまさにベストタイミングだと改めて思いました。この企画が京都大学だけでなく、全国の大学、教育機関に定着し、可能性に満ちた新入生たちの充実した大学生活のスタートにふさわしい取り組みとして定着してくれることを願います。

医学部附属病院 初期診療・救急科・救急部・小池 薫

新入生 3000 人への CPR 講習会、いい企画でした！ありがとうございました。私達、京大病院救急部の医師は、全員が救急外来で着用するエンジ色のユニフォームに身を固めて参加しました。新入生はみんな一生懸命あっぱ君を押していました！ペアを組んだ二人は、今回の説明会で偶然隣りにすわっただけの関係。お互い初対面で、何を話したらいいだろうと最初は少し緊張したはずですが、しかし、時間がたつにつれて、二人には笑顔が見られ、笑い声も聞かれるようになりました。そして、「自分たちはこれから同じ京都大学と一緒に学生生活を送る仲間なんだ」という意識が芽生えたはずですが。新入生諸君が充実した学生生活を過ごせるよう、私達も精一杯応援して行きたいと思います！

医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター・内藤 知佐子

新入生に対し、まだ気持ちも新たなこの時期に一斉にやることの意義は非常に大きいと感じました。2 人で 1 個のあっぱくん(トレーニングボックス)を使用することで初対面との仲間ともコミュニケーションを図る機会となっており、副次的な効果も得られていたことを感じております。

冒頭のトリガービデオでは、自分たちよりも若い命がある日突然失われてしまったことを知り、心臓突然死をより身近に感じてもらったのではないのでしょうか。ビデオを見つめる新入生の熱い眼差しや一生懸命に講習会に取り組むその姿から、今回の講習会の理念にも掲げた“心身の健

康と命の大切さ”を再確認してもらえたのではないかと実感しております。教員も、普段は接する機会のない他の領域の先生方と一緒にすることができ貴重な時間となりました。共に学ぶ「共育」の姿勢を大切に、全学で力を合わせ、継続的に取り組んで行けることを期待しています。

最後に、講習会開催にあたりご尽力いただきました多くの先生方に心より御礼申し上げます。

国際高等教育院・田中真介

『心に響いた救命講習』

新入生たちの晴れ晴れとした表情が良かったです。みんなにとって、貴重な、とてもいい時間となったんじゃないかなと思いました。京都大学に入学して最初に出会った得がたい経験として、人生の一コマに刻まれたのではないのでしょうか。印象的なことがいくつもあって、あとからあとから胸の奥に温かい温泉が湧いてくる感じです。①命のビデオ。真剣なまなざし。②ボジョレーたちの掛け合い。あたたかな笑い。③生き生きとした実技実習の実体験。④腹の底から声を出せる機会。それも、人を救うための。⑤2人組の妙。励まし合う。交代し合う。支えあう。

…新入生たちにとっては、「自分は、人を助けることのできる存在なんだ」という自己信頼性を、そして「自分は友だちから助けてもらえる存在なんだ」という相互のつながりと信頼性とを肌身で実感できる貴重な時間になったように思います。この経験は、これからの学生生活や将来の社会生活の中で出会ういろんな困難を乗り越えさせ、支え励ます経験として生きていくのではないのでしょうか。幼い頃にとっても大事にされた経験や、とてもいいもの、とてもきれいな風景に出会って感動した経験が、今の私たちをじんわりと支え励ましてくれているように。

そして教員にとっても、先生方同士やまた新入生たちとの貴重な交流の機会になりました。教える、支えることそのものの意義を感じます。4つの会場に、それぞれインストラクターとサポート教員が張り付いて、ライブでできたことも貴重なことでした。新入生たちにとっても先生方にとっても、貴重な「心のプッシュ・プロジェクト」となりましたね。この1年間の奮闘努力に感謝しています。

医学研究科 人間健康科学系専攻・西山 知佳

今回の計画に本格的に参加させていただき1年3ヶ月。H26年4月は、パイロットとしてスポーツ実習の初回授業で履修登録後の時間を使わせていただき、あっぱくん[®]をつかった講習会を行いました。いざという時に心肺蘇生法やAEDを使えるように、できる限り全ての学生に、心肺蘇生法のスキルを身につけてもらいたいと思っておりました。あのトライアルから1年後のH27年4月、全新生3,000人に救命講習会が本当にできるとは思っていませんでした。

今まで何度もあっぱくん[®]を使った講習会を行ってきましたが、3,000人規模の講習会の企画・運営は初めてでしたのでとにかく3回の講習会が終わるまで不安でいっぱいでした。どの講習会でも、学生もサポート下さった教員もイキイキとした表情で、あつと言う間の30分でした。インストラクターの私もとても楽しく講習会を行うことができました。

今回の講習会を受講し、学生には「いのち」の尊さを感じ、困っている人を助ける心、そんな心優しい豊かな人間性を兼ね備えたリーダーとして活躍してもらいたいと切に願っております。今後この取り組みが、京都大学では継続して実施されることはさることながら、この「いのち」の教育が日本中に普及するように邁進したいと思います。

VIII. 謝辞

今回の講習会を実施するにあたり、ご協力の下さりました吉田南構内共通事務部、情報環境機構(情報部)情報環境支援センター、人間健康科学系専攻事務の皆様には厚く御礼申し上げます。また、講習会のインストラクターを担当して下さった、医療法人 藤井会石切生喜病院 看護師 小嵯 緑様、医学研究科社会健康医学系専攻 予防医療学分野 博士後期課程 1 年生 島本大也さんに深謝いたします。

IX. 参考文献

1. 総務省消防庁:平成 25 年度版救急救助の現況. (2014/3/30 アクセス)
http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/kyukyukyujou_genkyo/h25/01_kyukyu.pdf
2. Kitamura T, Iwami T, Kawamura T, et al. Nationwide public-access defibrillation in Japan. N Engl J Med 2010;11:994-1004.
3. Iwami T, Nichol G, Hiraide A, et al. Continuous improvements of “chain of survival” increased survival after out-of-hospital cardiac arrests: a large-scale population-based study. Circulation 2009;119:728-34.
4. 2010 American Heart Association Guidelines for Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care. Circulation 2010;112 (Supp 3):S640-946.
5. 近藤 久禎. 厚生労働科学研究費補助金「循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業」自動体外式除細動器(AED)を用いた心疾患の救命率向上のための体制の構築に関する研究(課題番号 H18-心筋-001):AED 設置状況の調査システムの構築、(研究代表者:兵庫医科大学教授 丸川征四郎)
6. Iwami T, Kitamura T, Kawamura T, et al. Chest Compression-Only Cardiopulmonary Resuscitation for Out-of-Hospital Cardiac Arrest With Public-Access Defibrillation: A Nationwide Cohort Study. Circulation. 2012;126:2844-51.
7. Tanigawa K, Iwami T, Nishiyama C, et al. Are trained individuals more likely to perform bystander CPR? An observational study. Resuscitation. 2011;82:523-8.
8. 厚生労働省. AED の適正配置に関するガイドライン. <http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10802000-Iseikyoku-Shidouka/0000024513.pdf> (2014/3/30 アクセス)
9. 西山 知佳、黒木 裕士、馬場 正昭、田中 真介. 学校教育における心肺蘇生授業の実態と大学教育における課題. 第 16 回日本救急看護学会学術集会. (2014 年 10 月 大阪)
10. Nishiyama C, Iwami T, Kitamura T, et al. Long-term retention of cardiopulmonary resuscitation skills after shortened chest compression-only cardiopulmonary resuscitation training and conventional cardiopulmonary resuscitation training: a randomized controlled trial. Acad Emerg Med. 2014; 21: 47–54.
11. 文部科学省. 中学校学習指導要領解説 保健体育編
12. 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編
13. 日本蘇生協議会・日本救急医療財団(監):JRC 蘇生ガイドライン 2010. へるす出版, 東京, 2011.
14. 日本救急医療財団:救急蘇生法の指針 2010 市民用・解説編, 64–73, へるす出版, 東京, 2010

X. 参考資料 (次ページより)

平成27年度 救命救急講習会 全体タイムスケジュールと To Do List (2015.03.25現時点)

業務分担	業務内容 要約	詳細	担当	当日までのスケジューリング									
				12月	1月	2月	3月	4月1日	4月2日	4月3日	4月4日	4月5日	4月6日
								PM	PM本番	なし	土曜日	日曜日	AM/PM
事前準備								当日					
プログラム	全体		馬場／黒木／西山		教育院で確定								
	講義内容		西山		完了☺								
トライアル		1 会場下見	馬場／西山	12/19完了☺		2/23 AV器機	3/20 内藤先生・佐藤先生・島本君☺						
		2 サテライト設備チェック(長谷川掛長)	西山			なし							
		3 インストラクター説明会兼	西山			人間健康 3/19 FD☺	直前リハーサル						
関係部署への連絡		1 高等教育院	馬場		完了☺								
		2 全学共通オリエンテーション担当(中澤課長)	馬場		完了☺								
		3 健康科学センター(川村先生・石見先生)	馬場／黒木／西山		完了☺								
		4 研修センター(内藤先生)	西山	1/15予定完了☺									
		5 吉崎先生	馬場先生			完了☺							
		6 小池先生	黒木先生		完了☺								
		7 田中先生	馬場／黒木先生	1/30 WT完了☺			3/20 スポ実用説明☺						
		8 委員会の発足＊	馬場／黒木先生		吉崎先生の 返事待ち	2/6完了☺ 2/18meeting							
会場予約		1 4共30	馬場	12/17完了☺									
		2 4共31	馬場	12/17完了☺									
		3 4共21	馬場	12/17完了☺									
		4 4共11	馬場	12/17完了☺									
		5 4共14(控室)	馬場				□						
		6 4共3F演習室(あっぱくんの家)	馬場										
		7 4/5(日)あっぱくん運搬のための鍵依頼	西山			守衛室へ	□						
インストラクター集め		1 高等教育院	馬場		リストアップ□	確定□	リストアップ3/9 3/19確定☺	直前リハーサル					
		2 人間健康	黒木		リストアップ□	確定□	リストアップ3/9 3/19確定☺	直前リハーサル					
		3 スポーツ実習	馬場				リストアップ3/9 3/19確定☺						
		4 救急医学分野	小池／佐藤(格)		リストアップ□	確定□	リストアップ3/9 3/19確定☺	直前リハーサル					
あっぱくんの運搬		1 高等教育院(300個)	☺				4号館保管 スペースへ	各部屋へ配 置・施錠	終了後 308へ保管			各部屋へ再配置	
		2 健康科学センター(100個)	西山		□		3/30運搬	各部屋へ配 置・施錠	終了後 308へ保管			各部屋へ再配置	
		3 研修センター(200個)	西山		□		4/1運搬	各部屋へ配 置・施錠	終了後 研修センタ	4/2終了後～4/5夕方 医学会			各部屋へ再配置
		4 公用車手配	西山			2/19完了☺							
物品購入		1 あっぱくんに貼るシール(人間健康教務)	黒木		依頼完了☺ 納品待ち	完了☺							
		2 シール貼り	西山			研修センター ☺	3/25 高等教育院☺						
資料		1 アンケート	西山	□	1/7 馬場先生送付☺								
		2 インストラクターマニュアル	西山		□								
		3 講習会時間割	西山		完了☺								
		4 会場見取り図	西山		□	完了☺							
		5 準備物品一覧	西山		□	完了☺							
		6 部屋割りと役割分担表	西山		□		3/19確定☺						
		7 資料説明	西山				3/19 人間健康 3/20スポ実・救急 3/25久代先生☺						
		8 資料送付(高等教育院の先生方)	西山				3/19☺						

*委員会:(案)馬場委員長、黒木副委員長、川村委員、石見委員、小池委員、内藤委員、田中委員、西山

2015年4月2日(木)および4月6日(月)救命救急講習会 直前準備担当およびタイムテーブル(2015.03.25現在)

4/1(水)pm 鍵:事務

時刻			時間	項目	集合場所	公用車	あっぱくん 運搬責任者	運搬責任者 サポートスタッフ①	運搬責任者 サポートスタッフ②
9:00	～	10:00	1:00	あっぱくん・AED運搬 ・研修センター200個(20個×10箱) ⇒医学部事務担当から車予約済 ・健康科学センター100個(20個×5箱) ⇒3/30西山吉田南4号館へ事前運搬する		松下	馬場正昭(高等) 黒木裕士(理) 西山知佳(看) 佐藤隆平(看) 上野智弘(検) 松林 潤(検) 島本大也(健康)		
10:00	～	10:30	0:30	あっぱくんセット	4共11 4共21 4共30 4共31				
10:30	～	12:00	1:30	リハーサル	各部屋		西山、島本		
				解散					

4/2(木)pm 鍵:事務が開けて下さる

時刻			時間	項目	集合場所	担当	あっぱくん 運搬責任者	運搬責任者 サポートスタッフ①	運搬責任者 サポートスタッフ②
14:00	～	14:30	0:30	コアメンバー集合、うちわせ	4共14	西山知佳			
14:50				サポートスタッフ控室に集合	4共14				
15:00	～	15:20	0:20	説明		西山知佳			
15:20	～	15:30	0:10	各教室へ移動					
15:30	～	16:00	0:30	あっぱくん講習会	4共11 4共21 4共30 4共31	島本大也 西山知佳 石見 拓 小崎 緑			
16:00	～	16:20	0:20	あっぱくん撤収(アンケート記入中) 1. あっぱくんを段ボールにいれたら、「あっぱくん運搬責任者」と「サポートスタッフ①②」合計3名以外は解散 2. 各部屋のあっぱくんを4共3F308に運搬	4共11 4共21 4共30 4共31	島本大也 西山知佳 石見 拓 小崎 緑	佐藤隆平(看) 馬場正昭(高等) 西垣昌和(看) 建内宏重(理)	①竹之内沙弥香(看) ①宮田千春(看) ①西村亜希子(看) ①長谷川聡(理)	②清川加奈子(看) ②山口琴美(看) ②二宮早苗(看) ②小川真寛(作)
17:00	～			あっぱくん搬出 ・研修センター200個を一旦返却 医学部事務担当から公用車 あっぱくんの部屋施錠		松下 西山知佳			
				反省会					

4/5(日)pm 鍵:4/3(金)西山が借りておく

時刻			時間	項目	集合場所	担当			
15:00	～			4共30以外あっぱくんセッティングと到着を待機 16:30から17:00の間に到着予定	4共14	西山知佳	馬場正昭	佐藤隆平	
17:00	～	17:30	0:30	各部屋にあっぱくん配置					

4/6(月)am 鍵:事務が開けて下さる

時刻			時間	項目	集合場所	担当	あっぱくん 運搬責任者	運搬責任者 サポートスタッフ①	運搬責任者 サポートスタッフ②
9:30	～	10:00	0:30	コアメンバー集合、うちわせ	4共14	西山知佳			
10:20				控室に集合	4共14				
10:30	～	10:50	0:20	説明		西山知佳			
10:50	～	11:00	0:10	各教室へ移動					
11:00	～	11:30	0:30	あっぱくん講習会	4共11 4共21 4共30 4共31	島本大也 西山知佳 石見 拓 内藤知佐子			
11:30	～	11:40	0:10	学生アンケート記入時間 ・各部屋のインスタ、「あっぱくん運搬責任者」と「サポートスタッフ①②」の合計3名以外は、解散					
11:40	～	12:00	0:20	ガイダンス終了後 、各部屋の「あっぱくん運搬責任者」と「サポート隊②③」の合計3名であっぱくんの確認	4共11 4共21 4共30 4共31	島本大也 西山知佳 石見 拓 内藤知佐子	佐藤隆平(看) 馬場正昭(高等) 西垣昌和(看) 建内宏重(理)	①竹之内沙弥香(看) ①宮田千春(看) ①西村亜希子(看) ①長谷川聡(理)	②清川加奈子(看) ②山口琴美(看) ②二宮早苗(看) ②小川真寛(作)
				反省会					

休憩&待機

4/6(月)pm

時刻			時間	項目	集合場所	担当	あっぱくん 運搬責任者	運搬責任者 サポートスタッフ①	運搬責任者 サポートスタッフ②
14:00	～	14:30	0:30	コアメンバー集合、うちわせ	4共14	西山知佳			
14:50				控室に集合	4共14				
15:00	～	15:20	0:20	説明		西山知佳			
15:20	～	15:30	0:10	各教室へ移動					
15:30	～	16:00	0:30	あっぱくん講習会	4共11 4共21 4共30 4共31	島本大也 西山知佳 石見 拓 内藤知佐子			
16:00	～	16:20	0:20	あっぱくん撤収 1. あっぱくんを段ボールにいれたら、「あっぱくん運搬責任者」と「サポートスタッフ①②」合計3名以外は解散 2. 各部屋のあっぱくんを4共3F308に運搬	4共11 4共21 4共30 4共31	島本大也 西山知佳 石見 拓 内藤知佐子	佐藤隆平(看) 馬場正昭(高等) 西垣昌和(看) 建内宏重(理)	①竹之内沙弥香(看) ①宮田千春(看) ①西村亜希子(看) ①長谷川聡(理)	②清川加奈子(看) ②山口琴美(看) ②二宮早苗(看) ②小川真寛(作)
17:00	～			あっぱくん搬出 ・研修センター200個 ⇒医学部事務担当から公用車で運搬 ・健康科学センター100個 ⇒公用車で保健診療所まで返却(島本君と)		松下	佐藤隆平		
				あっぱくんの部屋施錠		西山知佳			
				反省会(後日)					

平成27年度 全学共通救命救急講習会 (2015.04.01現時点)

場所: 吉田南4号館 (4共11、4共21、4共30、4共31)

日時: 2015年4月2日(水)15:30-16:00、4月6日(月)11:00-11:30/15:30-16:00

目標

1. 命の大切さ、尊さを考える。
2. 第一救助者の重要性を理解する。
3. 胸骨圧迫とAEDの意義とその方法を理解する。

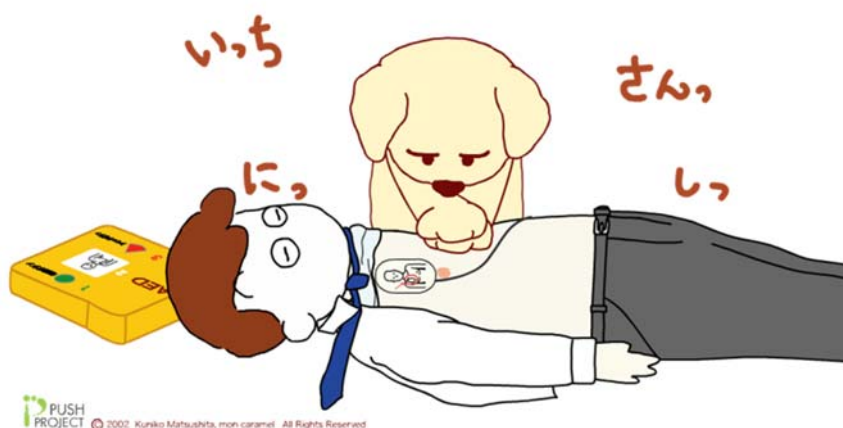
	時刻			DVD + 練習	DVD 所要時間	DVD 開始時間	DVD 終了時間	項目	話 または 練習時間	備考
導入	15:30	～	15:31	0:01:00					0:01:00	導入
	15:31	～	15:38	0:07:16	0:05:16	0:00:00	0:05:16	メッセージビデオ	0:02:00	・3つのポイントを学びます。 ・DVDを見て実技行います。 ・ここであっくんを机の上に出してもらう ・あっくんの蓋を開ける
展開	15:38	～	15:40	0:02:20	0:01:50	0:01:31	0:03:21	第一話	0:00:30	「みんなも一緒にやってみよう」(脈)⇒30秒
	15:40	～	15:41	0:00:33	0:00:33	0:03:24	0:03:57			
	15:41	～	15:43	0:02:12	0:01:12	0:03:58	0:05:10	第二話	0:01:00	「みんなも一緒にやってみよう」(応援)⇒60秒
	15:43	～	15:45	0:01:42	0:01:12	0:05:13	0:06:25		0:00:30	「みんなも一緒にやってみよう」(呼吸)⇒30秒
	15:45	～	15:46	0:01:07	0:00:52	0:06:28	0:07:20		0:00:15	「みんなも一緒にやってみよう」(胸骨圧迫) ⇒手の組み方15秒
	15:46	～	15:48	0:02:30	0:01:00	0:07:23	0:08:23		0:01:30	胸骨圧迫を1人30秒 ・あっくんを隣の人に渡す(DVD一旦止める)
	15:48	～	15:49	0:00:31	0:00:31	0:11:20	0:11:51			交代の場面を見る
	15:49	～	15:52	0:03:00	0:03:00	0:11:54	0:14:54		0:03:00	「みんなも一緒にやってみよう」(交代) ・2人組の確認 ⇒30秒ずつ交代する
	15:52	～	15:55	0:02:54	0:02:09	0:16:10	0:18:19	第三話	0:00:45	パットの装着(位置確認)⇒45秒
	15:55	～	15:57	0:02:07	0:00:37	0:18:22	0:18:59		0:01:30	AEDの音声を聞かせる 電気ショックボタン⇒30秒
	15:57	～	15:58	0:00:57	0:00:57	0:19:02	0:19:59			おとーさん
まとめ	15:58	～	15:59	0:01	0:01:00	0:33:23		まとめ	0:01:00	

0:20:09

H27 年度

新入生 3000 名への救命講習会

サポートスタッフ手順書



2015/03/19

Ver.1

救命救急講習 ProjectTEAM 作成

目 次

I. 救命講習会の理念	1
II. 救命講習会の目的	1
III. 救命講習会実施の概要	1
IV. 場所・日程・学生部屋割り	1-3
V. あっぱくんについて	3
VI. サポートスタッフの役割	4-5
VII. 当日の流れ	5
VIII. 救命講習会時間割り (4/2(木)・4/6(月)15:30-16:00 と 4/6(月)11:00-11:30)	6-7
IX. サポートスタッフ担当表	8-10
X. 教室配置図	11-22
4/2(木)15:30-16:00:4 共 11、4 共 21、4 共 30、4 共 31	11-14
4/6(月)15:30-16:00:4 共 11、4 共 21、4 共 30、4 共 31	15-18
4/6(月)11:00-11:30:4 共 11、4 共 21、4 共 30、4 共 31	19-22
XI. 体調不良、怪我など	23
XII. 地震・火災等避難経路方法	24

I. 救命講習会の理念

新入生に心身の健康と命の大切さを感じ取ってもらうことを目的とした講習です。新入生全員が、CPR/AED(心肺蘇生/自動体外式除細動器)を体験しながら、救命救急について学びます。実際に心肺停止に遭遇した場合にも躊躇なく救命行動ができるように、心肺蘇生法の中でも一番大事なポイントを修得します。新入生は、2人ひと組のペアをつくって、協力しあいながら、心肺蘇生のトレーニング器「あっぱくん®」で蘇生法を体験します。

この講習会では、心肺蘇生のスキルを教えることだけでなく、自分や周りの人の命の大切さを考えるきっかけを与えることです。また、1回生同士のペアや、サポートスタッフの教員と対話しながら心肺蘇生法を学ぶことによって、社会や仲間の中での自己信頼性と自己肯定性、自己有用性を高めていけるよう配慮したいと思います。

II. 救命講習会の目的

1. 心肺蘇生法を実施しAEDを使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに119番通報を行い、迅速に心肺蘇生(胸骨圧迫)を実施し、AEDを使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. 同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとる。

III. 救命講習会実施の概要

4/2(木)-4/6(月)までに新入生に対して行われる新入生ガイダンス(2時間20分)の30分間で、救命講習会を行います。学生数が多いので、4教室で同時に講習を進め、1回の講習で約1000名、全3回行うことで新入生約3000人に指導を行います。

IV. 場所・日程・学生部屋割り

1. 場所: 吉田南4号館(地図番号88)

4 共 11(1F)

4 共 21(2F)

4 共 30(3F)

4 共 31(3F)

2. 日程:

2015年4月2日(水)15:30-16:00

(ガイダンスは14:00-16:20)

2015年4月6日(月)11:00-11:30

(ガイダンスは9:30-11:50)

2015年4月6日(月)15:30-16:00

(ガイダンスは14:00-16:20)



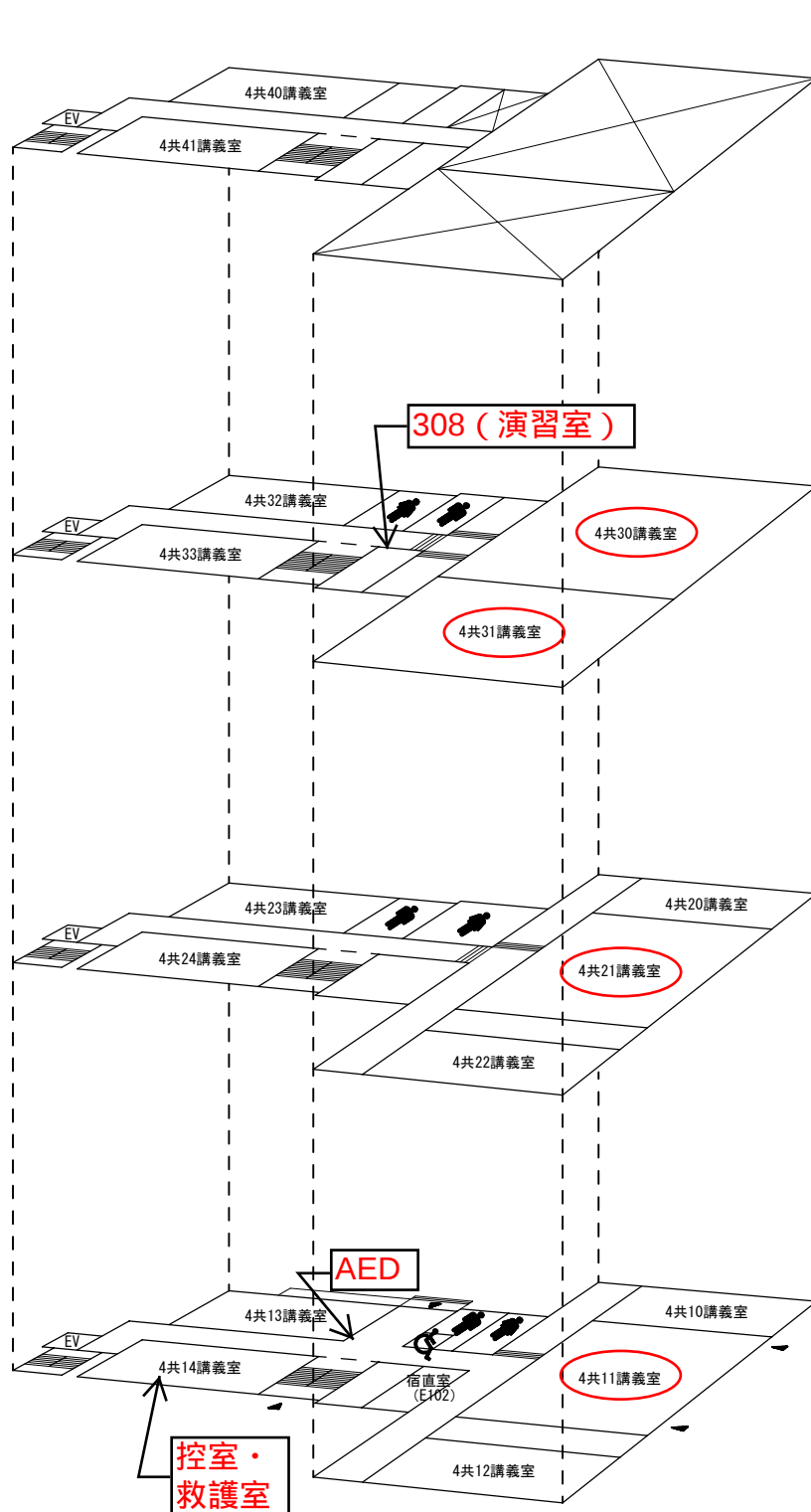
吉田南 4 号館

4 階

3 階

2 階

1 階



3. 学生部屋割り

①4月2日(木)15:30-16:00

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	243	250	332	182
学部	工学部 (物理工学)	工学部 (工業化学)	工学部 (地球工学) (電気電子)	工学部 (建築) (情報)

②4月6日(月)11:00-11:30

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	229	260	335	186
学部	文学部	経済学部	法学部	総合人間学部

③4月6日(月)15:30-16:00

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	208	234	350	194
学部	医学部(医) 農学部 (資源生物)	医学部(人) 農学部 (地域環境) (食品生物)	理学部 農学部 (食料・環境)	薬学部 農学部 (応用生命) (森林科学)

* 学生数は H26 年度の数です。多少変動はあると思いますが、H27 年度もおおむね同じ数です。

V. あっぱくんについて

今回は心肺蘇生のトレーニング器「あっぱくん®」を 2 人で 1 個 (奇数の座席については、1 人 1 個のところもあり) を使います (右写真)。

あっぱくん®は、講習会が始まる前にあらかじめ机の中にセットされています (下記写真)。インストラクターは、講習会が始まったら机の上にあっぱくん®を出すように指示をします。

こんな感じで事前に準備しておきます⇒



VI. サポートスタッフの役割

1. 概要

今回の講習会は、スライドに流れる DVD 映像を見た後、一旦 DVD を止めてみんなで実技を行います。サポートスタッフ 1 人で約 20 名の新入生を担当し、(担当部屋は、page7-9 参照) 下記の内容を行っていただきたいと思います。

2. 役割(お願いしたいこと)

- ①DVD の流れについて実技ができているかどうかを見守り、励ましの言葉をかけて下さい
(よくある例: 時々DVD をちゃんと見ておらず、何をしたらいいかわからなくなっている)
- ②DVD と異なることをしていたら、声を掛けてサポートして下さい
(よくある例: AED のパッドを貼る位置が、左右逆。あっぱくん®の置く向きが違う。)
- ③胸骨圧迫の練習の際、手の組み方、ひじが曲がっていないか、ハートの真ん中が押せているか確認して「いいね!」「その調子」「がんばれ!」など声掛けをしてください
- ④あっぱくん®から音が鳴らなくてもしっかり押せていると思われたら、「大丈夫。押せている」と言ってあげて下さい。机の高さと身長が合わず力が入りにくい学生がいると思います(特に女子)。できる範囲で胸骨圧迫の練習をしてもらって下さい。
- ⑤DVD についていけない新生が入った場合、全体の流れを調整するようにインストラクターに伝えて下さい。学生数が多いので、インストラクターは細部まで目が行き届かない場合があります。お願いします。
- ⑥DVD の映像を見る時以外は、担当する新生に積極的に声を掛けて下さい
(例: うまく胸骨圧迫ができていたら褒めて下さい。)
- ⑦講習会中盤で、2 人一組になって胸骨圧迫の交代の練習をする場面があります。ここがサポートスタッフの一番必要なところですよ。左右でペアがいなくて一人になっている学生はいないか？(奇数の座席数は前後で)うまく 2 人 1 組になるように誘導して下さい。2 人組にならない場合は、その学生とペアになって下さい。一人ぼっちになると寂しいです。
- ⑧4/2(木)15:30-16:00 および 4/6(月)15:30-16:00 の講習を担当して下さい。サポートスタッフは、担当した学生のあっぱくん®を集め、教室後ろにあるあっぱくん®の収納 BOX へ戻して下さい。そのまま、流れ解散で結構です。あっぱくん®を回収しながら「どうだった?」と声を掛けていただけるとありがたいです。お願いします。

3. あっぱくん運搬責任者の役割(スタッフ番号がついてない先生方)

- ①あっぱくん[®]が足りない時には、補充をしてください。
- ②何か困っていることがないか、見渡して下さい。4 共 11、4 共 21、4 共 31 の担当の先生は、もし可動式机に学生が着席している場合、学生のサポートをお願いします。
- ③4/2(木)午後:講習会后、サポートスタッフが持ってきたあっぱくん[®]を講義室後ろにある段ボールに 20 個ずつ詰めていって下さい。4 共 11、4 共 21、4 共 31 のあっぱくん[®]を台車に乗せて、3F308(演習室)に運搬して下さい。4 共 30 のあっぱくん[®]のみ、1F の入り口まで運んで下さい。
- ④4/6(月)午後:講習会后、サポートスタッフが持ってきたあっぱくん[®]を講義室後ろにある段ボールに 20 個ずつ詰めていって下さい。4 共 11、4 共 21 のあっぱくん[®]を台車に乗せて、3F308(演習室)に運搬して下さい。4 共 30、4 共 31 のあっぱくん[®]は、1F の入り口まで運んで下さい。

4. あっぱくん運搬責任者サポートスタッフの役割(スタッフ番号①と②の先生方)

上記③と④をあっぱくん運搬責任者と一緒に実施して下さい。

VII. 当日の流れ

1. 2015 年 4 月 2 日(木)および 4 月 6 日(月) 15:30-16:00

時間	項目	場所・備考
14:50	サポートスタッフ 控え室集合	4 共 14(1F)
15:00-15:20	説明	4 共 14(1F)
15:20-15:30	各部屋に移動	4 共 11(1F)、4 共 21(2F)、4 共 30(3F)、4 共 31(3F)
15:30-16:00	救命講習会	
16:00-16:10	あっぱくん [®] 回収	アンケート回答時、担当学生のあっぱくん [®] を集め介入 BOX へ収納。収納後、流れ解散
	解散	あっぱくん運搬責任者、サポートスタッフ①、サポートスタッフ②は、後片付け

2. 2015 年 4 月 6 日(月) 11:00-11:30

時間	項目	場所・備考
10:20	サポートスタッフ 控え室集合	4 共 14(1F)
10:30-10:50	説明	4 共 14(1F)
10:50-11:00	各部屋に移動	4 共 11(1F)、4 共 21(2F)、4 共 30(3F)、4 共 31(3F)
11:00-11:30	救命講習会	
	解散	あっぱくん運搬責任者、サポートスタッフ①、サポートスタッフ②以外は、適宜解散

平成27年度 新入生への救命救急講習会 (2015.03.12現時点)

場所: 吉田南4号館 (4共11、4共21、4共30、4共31)

日時: 2015年4月2日(木)・6日(月)15:30-16:00

目標

1. 命の大切さ、尊さを考える。
2. 第一救助者の重要性を理解する。
3. 胸骨圧迫とAEDの意義とその方法を理解する。



特に気に掛けていただきたい項目

	時刻			項目		お願い
導入	15:30	～	15:31			あいさつ
	15:31	～	15:38	メッセージビデオ		・動機づけのためのメッセージビデオを見ます。 ・メッセージビデオ後、あっぱくんを机の上に出し蓋を開けてもらいます。蓋が開かない学生がいたらサポートをお願いします。
展開	15:38	～	15:40	第一話		手首で脈の確認をしますが、見つけられない学生がいたらサポートをお願いします。
	15:40	～	15:41			
	15:41	～	15:43	第二話		声を出すことを恥しがるかもしれませんが、先生方も一緒に声を出して下さい。
	15:43	～	15:45			あっぱくんの胸(ハートの辺り)や、お腹辺りを見ているか確認してください。
	15:45	～	15:46			左右どちらが上でもいいので、手が組めているか確認してください。
	15:46	～	15:48			胸骨圧迫を1人30秒体験します。 30秒経ったら、合図を出しますのであっぱくんを隣の人に渡します。
	15:48	～	15:49			胸骨圧迫の交代の方法をDVDで見ます。
	15:49	～	15:52			2人1組になれているか確認してください。 30秒経ったら合図をするので、学生同士声を掛けあって胸骨圧迫の交代をします。注)あっぱくんを移動させず、人が移動するようにして下さい。
	15:52	～	15:55	第三話		自分の体でAEDパットを貼る位置を確認しますが、逆になってないか確認してください。
	15:55	～	15:57			AEDの音声を聞いてみます。 模擬AEDの電気ショックボタンを押します。
	15:57	～	15:58			
まとめ	15:58	～	16:00	まとめ		

平成27年度 新入生への救命救急講習会 (2015.03.12現時点)

場所: 吉田南4号館 (4共11、4共21、4共30、4共31)

日時: 2015年4月6日(月) 11:00-11:30

目標

1. 命の大切さ、尊さを考える。
2. 第一救助者の重要性を理解する。
3. 胸骨圧迫とAEDの意義とその方法を理解する。



特に気に掛けていただきたい項目

	時刻			項目		お願い
導入	11:00	～	11:01			あいさつ
	11:01	～	11:08	メッセージビデオ	😊	・動機づけのためのメッセージビデオを見ます。 ・メッセージビデオ後、あっぱくんを机の上に出し蓋を開けてもらいます。蓋が開かない学生がいたらサポートをお願いします。
展開	11:08	～	11:10	第一話		手首で脈の確認をしますが、見つけられない学生がいたらサポートをお願いします。
	11:10	～	11:11			
	11:11	～	11:13	第二話	😊	声を出すことを恥しがるかもしれませんが、先生方も一緒に声を出して下さい。
	11:13	～	11:15			あっぱくんの胸(ハートの辺り)や、お腹辺りを見ているか確認してください。
	11:15	～	11:16		😊	左右どちらが上でもいいので、手が組めているか確認してください。
	11:16	～	11:18		😊	胸骨圧迫を1人30秒体験します。 30秒経ったら、合図を出しますのであっぱくんを隣の人に渡します。
	11:18	～	11:19			胸骨圧迫の交代の方法をDVDで見ます。
	11:19	～	11:22		😊	2人1組になれているか確認してください。 30秒経ったら合図をするので、学生同士声を掛けあって胸骨圧迫の交代をします。注)あっぱくんを移動させず、人が移動するようにして下さい。
	11:22	～	11:25	第三話	😊	自分の体でAEDパットを貼る位置を確認しますが、逆になってないか確認してください。
	11:25	～	11:27			AEDの音声を聞いてみます。 模擬AEDの電気ショックボタンを押します。
	11:27	～	11:28			
まとめ	11:28	～	11:30	まとめ		

部屋割りとサポートスタッフ配置(2015.04.01現在。赤字は改訂箇所)

日程		2015/4/1	2015/4/2(木)					
講習会時間		9:00-10:30	15:30-16:00					
教室名(吉田南4号館)		事前準備係	4共11(1F)	4共21(2F)	4共30(3F)	4共31(3F)	合計	
部局	馬場正昭(高等) 黒木裕士(理) 西山知佳(看) 佐藤隆平(看) 上野智弘(検) 松林 潤(検) 島本大也(健康)	工学部 (物理工学)	工学部 (工業化学)	工学部 (地球工学) (電気電子)	工学部 (建築) (情報)			
インスト		島本大也	西山知佳	石見 拓	小嵯 緑			
学生人数 *		243	243	327	179	992		
あっぱくん個数		9:00-12:00	138	138	177	99	552	
あっぱくん所属		事前準備係	高等教育院	高等教育院	研修センター	健康科学		
サポート スタッフ メンバー	あっぱくん 運搬責任者	馬場正昭(高等) 黒木裕士(理) 西山知佳(看) 佐藤隆平(看) 島本大也(健康)	佐藤隆平(看)	馬場正昭(高等)	西垣昌和(看)	建内宏重(理)		
	運搬責任者 サポートスタッフ①		①竹之内沙弥香(看)	①宮田千春(看)	①西村亜希子(看)	①長谷川聡(理)		
	運搬責任者 サポートスタッフ②		②清川加奈子(看)	②山口琴美(看)	②二宮早苗(看)	②小川真寛(作)		
			③古川亮子(看・救護)	③大倉美佳(看・救護)	③内海桃絵(看・救護)	③滝澤寛子(看・救護)		
			④浪田 健(検)	④野村晴美(スポ実)	④小池 薫(救急)	④岡橋さやか(作)		
			⑤伊藤洋志(検)	⑤梅田陽子(スポ実)	⑤井上 京(救急)	⑤松島佳苗(作)		
			⑥山本康子(検)	⑥杉本寛恵(スポ実)	⑥大鶴 繁(救急)	⑥大畑光司(理)		
			⑦森瀬譲二(検)	⑦高山優子(スポ実)	⑦大嶽康介(救急)	⑦池添冬芽(理)		
			⑧竹松 弘(検)	⑧河端隆志(スポ実)	⑧足立壯一(検)	⑧山田純栄(作)		
			⑨大塚研一(検)	⑨ ⑦⑩⑪でサポート	⑨柳吉桂子(看)	⑨青山朋樹(理)		
			⑩笹山 哲(検)	⑩道端明子(スポ実)	⑩古田真里枝(看)	⑩加藤寿宏(作)		
			⑪伊吹謙太郎(検)	⑪吉崎武尚(高等)	⑪田村恵子(看)	梅原 潤(理・院) カメラ		
			⑫上久保靖 彦(検)	⑫塚原信行(高等)	⑫木下彩栄(看)	田中浩基(理・院) ビデオ		
			大坂美穂(検・院) カメラ	⑬那須田周平(高等)	⑬石津浩一(融合)			
			白木直人(検・院) ビデオ	⑭ ⑫⑬でサポート	⑭鈴木 崇生			
				小西奈美(看) ビデオ	⑮佐藤 格夫			
				久代恵介(スポ実) カメラ	⑯池内香織(看・院)			
					⑰田中真琴(看・院)			
					⑱漆原万里子(看・院) カメラ			
					宇多 雅(看・院) ビデオ			
					4共14控室・救護室: 渡辺和香(国際高等教育院)			

* 学生人数に関しては、H27度予定数

救急部当日参加メンバー
角田洋平

部屋割りとサポートスタッフ配置(2015.04.06現在。赤字は改訂箇所)

日程		2015/4/6(月)				
講習会時間		11:00-11:30				
教室名(吉田南4号館)		4共11(1F)	4共21(2F)	4共30	4共31	合計
部局		文学部	経済学部	法学部	総合人間学部 教育学部	
インスト		島本大也	西山知佳	石見 拓	内藤知佐子	
学生人数 *		228	257	341	210	1,036
あっぱくん個数		130	148	179	100	557
あっぱくん所属		高等教育院	高等教育院	研修センター	健康科学	
サポート スタッフ メンバー	あっぱくん 運搬責任者	佐藤隆平(看)	馬場正昭(高等)	西垣昌和(看)	建内宏重(理)	
	運搬責任者 サポートスタッフ①	①竹之内沙弥香(看)	①宮田千春(看)	①西村亜希子(看)	①長谷川聡(理)	
	運搬責任者 サポートスタッフ②	②清川加奈子(看)	②山口琴美(看)	②二宮早苗(看)	②小川真寛(作)	
		③古川亮子(看・救護)	③大倉美佳(看・救護)	③内海桃絵(看・救護)	③滝澤寛子(看・救護)	
		④杉本直三(検)	④金 尚憲(スポ実)	④佐藤格夫(救急)	④岡橋さやか(作)	
		⑤伊藤洋志(検)	⑤樫 智子(スポ実)	⑤川嶋秀治(救急)	⑤松島佳苗(作)	
		⑥山本康子(検)	⑥杉藤洋志(スポ実)	⑥石津浩一(融合)	⑥坪山直生(理)	
		⑦森瀬譲二(検)	⑦舟橋春彦(高等)	⑦笹山 哲(検)	⑦ ④⑧⑩でサポート	
		⑧竹松 弘(検)	⑧上久保靖彦(検)	⑧大塚研一(検)	⑧三谷 章(作)	
		⑨上野智弘(検)	⑨青山朋樹(理)	⑨山田純栄(作)	⑨大塚貞男(作・院)	
		⑩岡 昌吾(検)	⑩加藤寿宏(作)	⑩若村智子(看)	⑩田上由佳(作・院)	
		⑪精山明敏(検)	⑪大畑光司(理)	⑪天谷真奈美(看)	築瀬 康(理・院) カメラ	
		⑫椎名 毅(検)	⑫池添冬芽(理)	⑫伊吹謙太郎(検)	藤田 康介(理・院) ビデオ	
	白木直人(検・院) カメラ	⑬松林 潤(作)	⑬柳吉桂子(看)			
	村中太河(検・院) ビデオ	⑭服部高宏(高等)	⑭古田真里枝(看)			
		久代恵介(スポ実) カメラ	⑮小西奈美(看)			
		田中真介(スポ実) ビデオ	⑯林田 麗(看・院)			
			⑰田中真琴(看・院)			
			漆原万里子(看・院) カメラ			
			宇多 雅(看・院) ビデオ			
		4共14控室・救護室:前田祐子(理)				

* 学生人数に関しては、H27度予定数

救急部当日参加メンバー
小池先生
天満先生
石田先生
平川先生

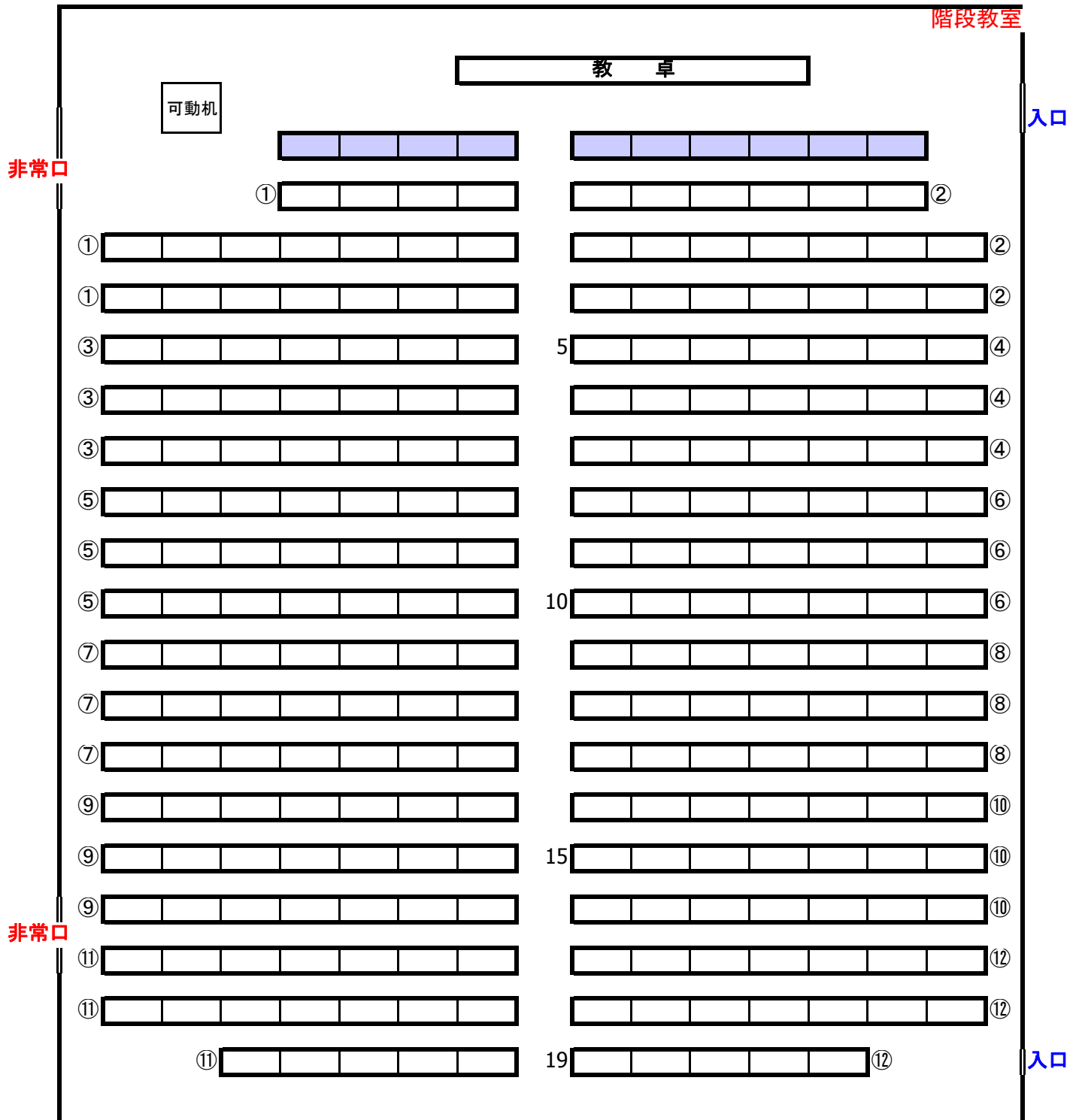
部屋割りサポートスタッフ配置(2015.04.06現在。赤字は改訂箇所)

日程		2015/4/6(月)				
講習会時間		15:30-16:00				
教室名(吉田南4号館)		4共11(1F)	4共21(2F)	4共30(3F)	4共31(3F)	合計
部局		医学部(医) 農学部 (資源生物)	医学部(人) 農学部 (地域環境) (食品生物)	理学部 農学部 (食料・環境)	薬学部 農学部 (応用生命) (森林科学)	
インスト		島本大也	西山知佳	石見 拓	内藤知佐子	
学生人数 *		208	228	354	197	987
あっぱくん個数		124	132	190	110	556
あっぱくん所属		高等教育院	高等教育院	研修センター	健康科学 高等教育院	
サポート スタッフ メンバー	あっぱくん 運搬責任者	佐藤隆平(看)	馬場正昭(高等)	西垣昌和(看)	建内宏重(理)	
	運搬責任者					
	サポートスタッフ①	①竹之内沙弥香(看)	①宮田千春(看)	①西村亜希子(看)	①長谷川聡(理)	
	運搬責任者					
	サポートスタッフ②	②清川加奈子(看)	②山口琴美(看)	②二宮早苗(看)	②小川真寛(作)	
		③古川亮子(看・救護)	③大倉美佳(看・救護)	③内海桃絵(看・救護)	③滝澤寛子(看・救護)	
		④上久保靖彦(検)	④金 尚憲(スポ実)	④柚木知之(救急)	④岡橋さやか(作)	
		⑤伊藤洋志(検)	⑤樫 智子(スポ実)	⑤佐藤格(救急)	⑤松島佳苗(作)	
		⑥山本康子(検)	⑥金丸敏幸(高等)	⑥大嶽康介(救急)	⑥大畑光司(理)	
		⑦森瀬譲二(検)	⑦十一元三(作)	⑦播摩 裕(救急)	⑦池添冬芽(理)	
		⑧竹松 弘(検)	⑧山田重人(理)	⑧西山慶(救急)	⑧山田純栄(作)	
		⑨上野智弘(検)	⑨藤井康友(検)	⑨桂 敏樹(看)	⑨松林 潤(作)	
		⑩笹山 哲(検)	⑩青山朋樹(理)	⑩我部山キヨ子(看)	⑩加藤寿宏(作)	
		⑪伊吹謙太郎(検)	⑪石津浩一(融合)	⑪鈴木真知子(看)	正木光裕(理・院) カメラ	
		村中太河(検・院) カメラ	久代恵介(スポ実) カメラ	⑫菅沼信彦(看)	小山 優美子(理・院) ビデオ	
		大坂美穂(検・院) ビデオ	田中真介(スポ実) ビデオ	⑬大塚研一(検)		
				⑭柳吉桂子(看)		
				⑮古田真里枝(看)		
				⑯小西奈美(看)		
				⑰林田 麗(看・院)		
				⑱田中真琴(看・院)		
				漆原万里子(看・院) カメラ		
				宇多 雅(看・院) ビデオ		
		4共14控室・救護室:前田祐子(理)				

* 学生人数に関しては、H27度予定数

4/2(木)15:30-16:00
4共11

定員 254



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく列に配置しています。

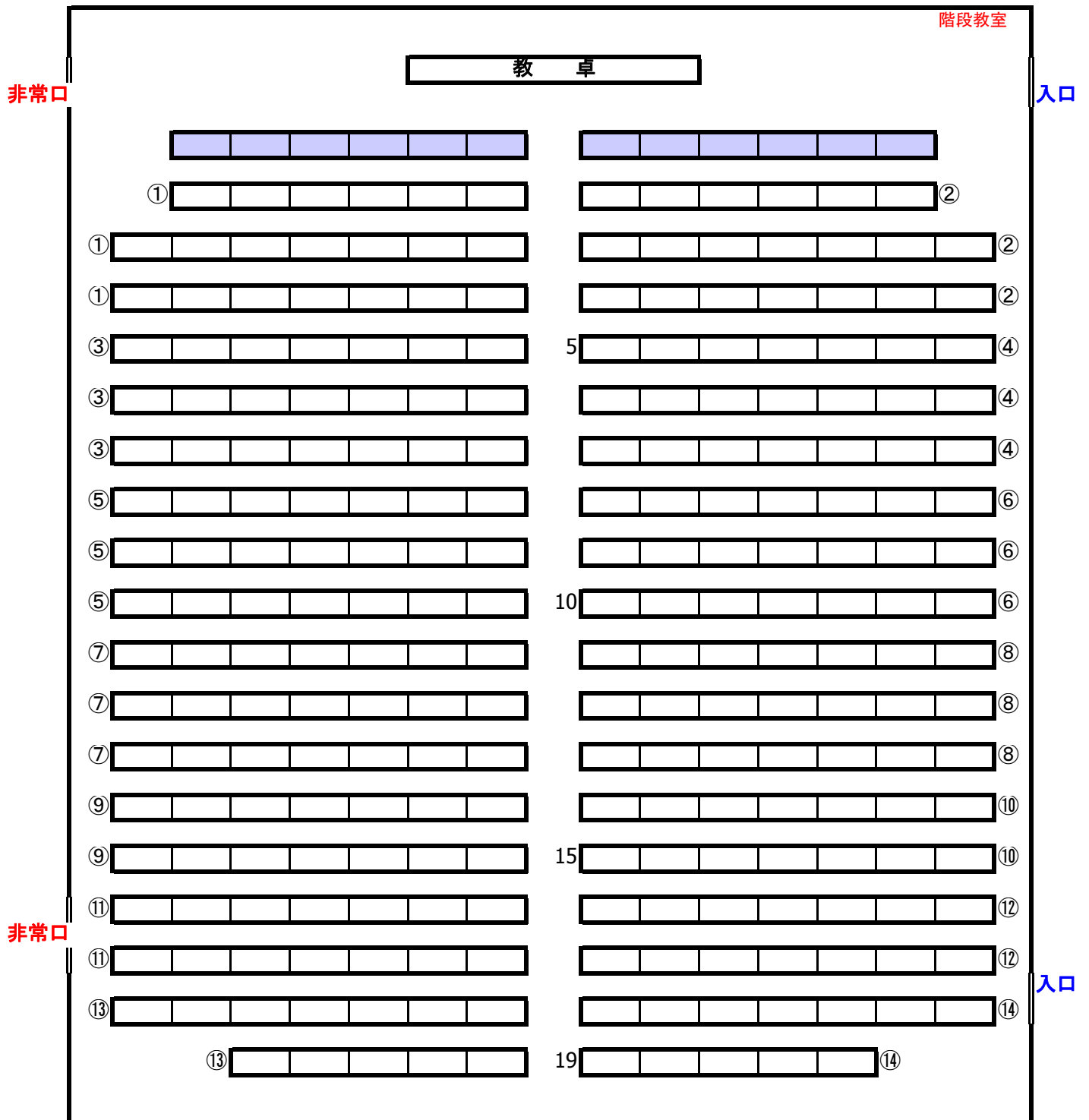
数字は、机の列番号を意味しています。

■：基本、可動機は使用しないが、足りない場合は使用することもあり。

使用した場合は、あっぱくん運搬責任者が学生を担当する。

4/2(木)15:30-16:00
4共21

定員 258



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく列に配置しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

■：基本、可動機は使用しないが、足りない場合は使用することもあり。
使用した場合は、あっぱくん運搬責任者が学生を担当する。

4/2(木) 15:30-16:00
4共30

定員 376

階段教室

非常口

入口

非常口

入口

教 卓		
①	②	③
①	②	③
①	②	③
④	⑤	5 ⑥
④	⑤	⑥
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨
⑦	⑧	⑨
⑦	⑧	10 ⑨
⑩	⑪	⑫
⑩	⑪	⑫
⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮
⑬	⑭	15 ⑮
⑬	⑭	⑮
⑯	⑰	⑱
⑯	⑰	⑱
⑯	⑰	⑱
		20

非常口

○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく列に配置しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

: 可動机は使用しない。

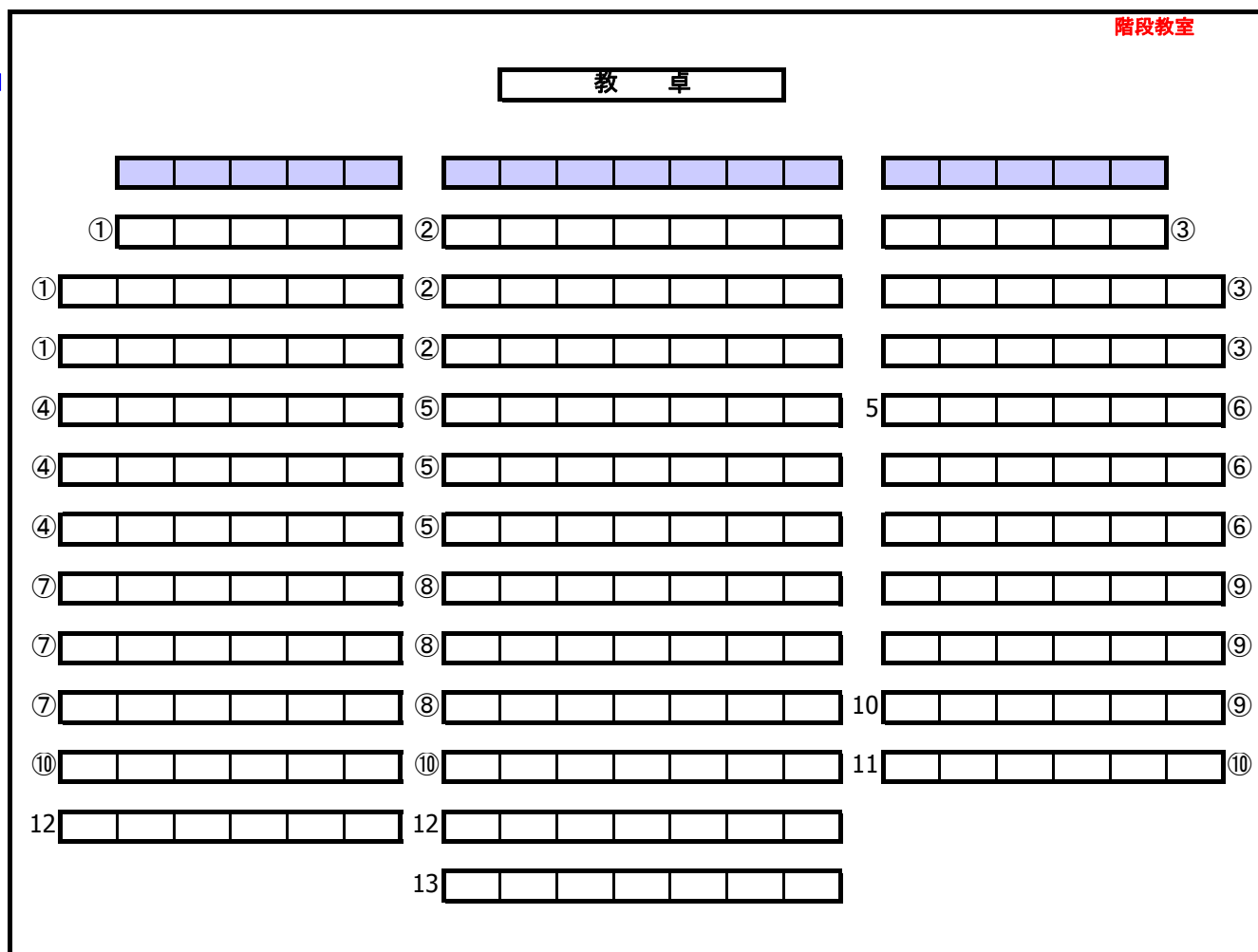
4/2(木)15:30-16:00
4共31

定員 225

入口

階段教室

非常口



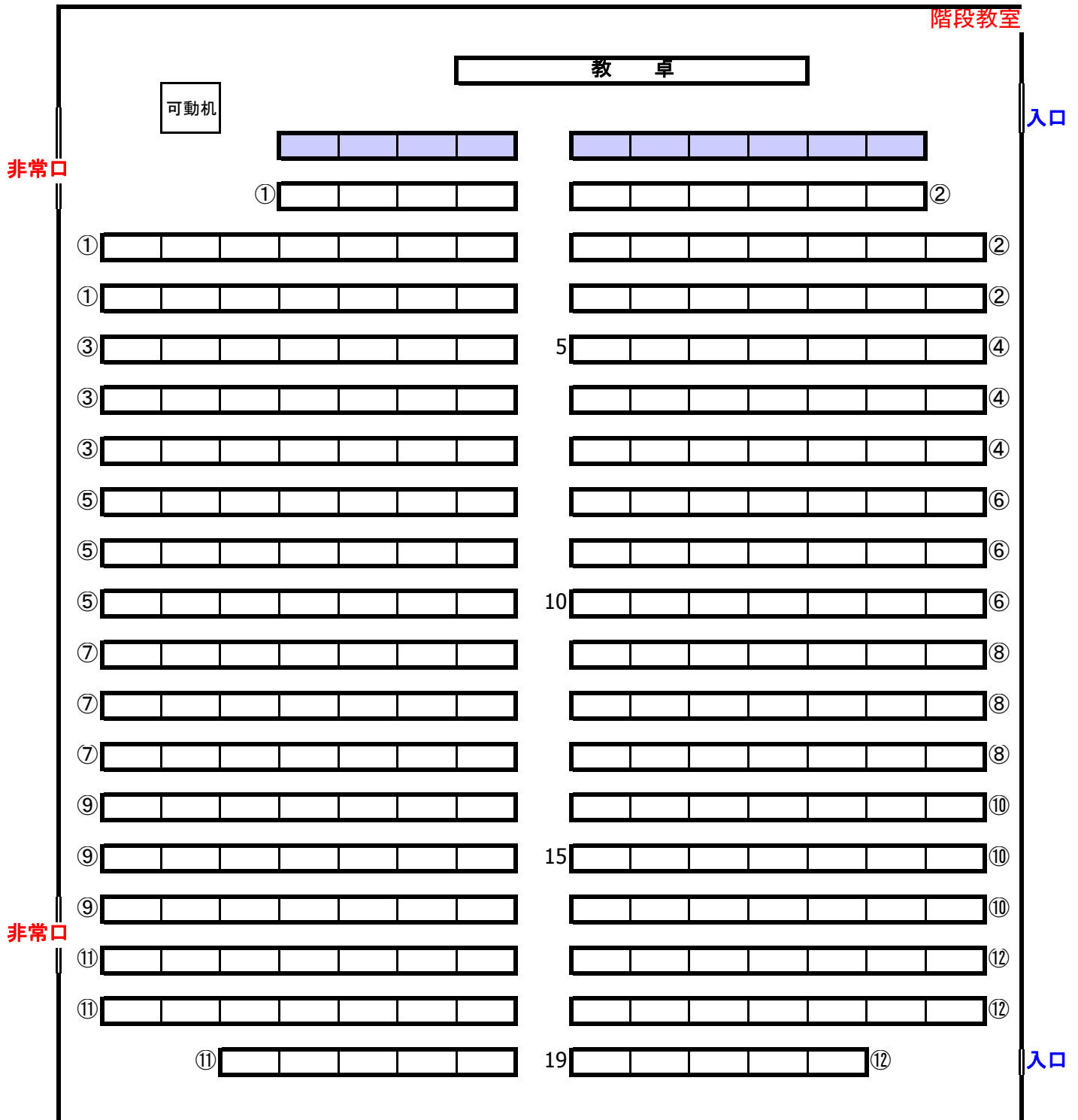
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく列に配置しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

■:基本、可動机は使用しないが、足りない場合は使用することもあり。
使用した場合は、あっぱくん運搬責任者が学生を担当する。

非常口

4/6(月)11:00-11:30
4共11

定員 254



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく列に配置しています。

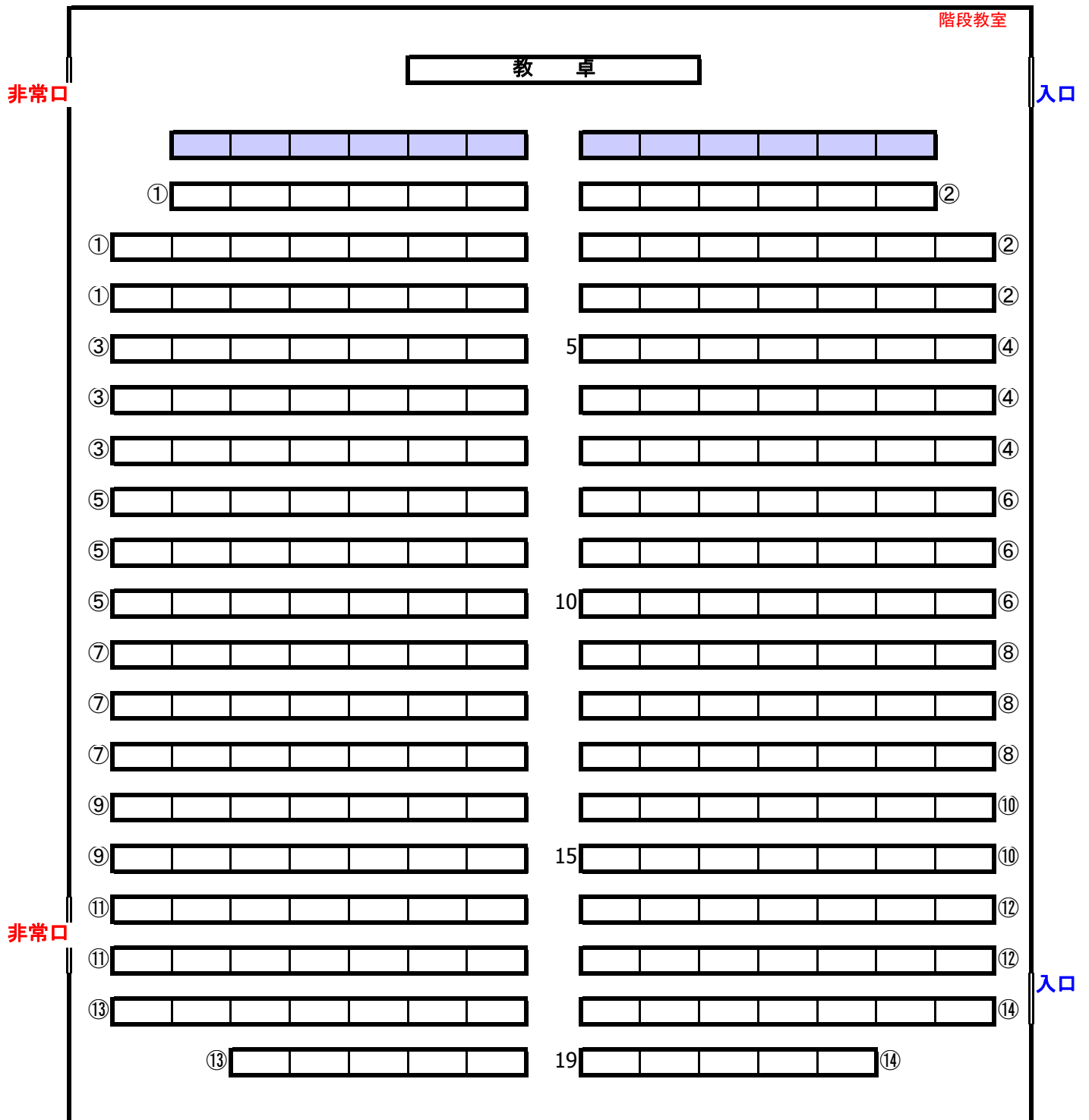
数字は、机の列番号を意味しています。

■：基本、可動機は使用しないが、足りない場合は使用することもあり。

使用した場合は、あっぱくん運搬責任者が学生を担当する。

4/6(月)11:00-11:30
4共21

定員 258



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく列に配置しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

■：基本、可動機は使用しないが、足りない場合は使用することもあり。
使用した場合は、あっぱくん運搬責任者が学生を担当する。

4/6(月)11:00-11:30

4共30

定員 376

階段教室

非常口

入口

非常口

入口

教 卓		
		
① 	② 	 ③
① 	② 	 ③
① 	② 	 ③
④ 	⑤ 	5  ⑥
④ 	⑤ 	 ⑥
④ 	⑤ 	 ⑥
⑦ 	⑧ 	 ⑨
⑦ 	⑧ 	 ⑨
⑦ 	⑧ 	10  ⑨
⑩ 	⑪ 	 ⑫
⑩ 	⑪ 	 ⑫
⑩ 	⑪ 	 ⑫
⑬ 	⑭ 	 ⑮
⑬ 	⑭ 	15  ⑮
⑬ 	⑭ 	 ⑮
⑯ 	⑰ 	 ⑱
⑯ 	⑰ 	 ⑱
⑯ 	⑰ 	 ⑱
		20 

非常口

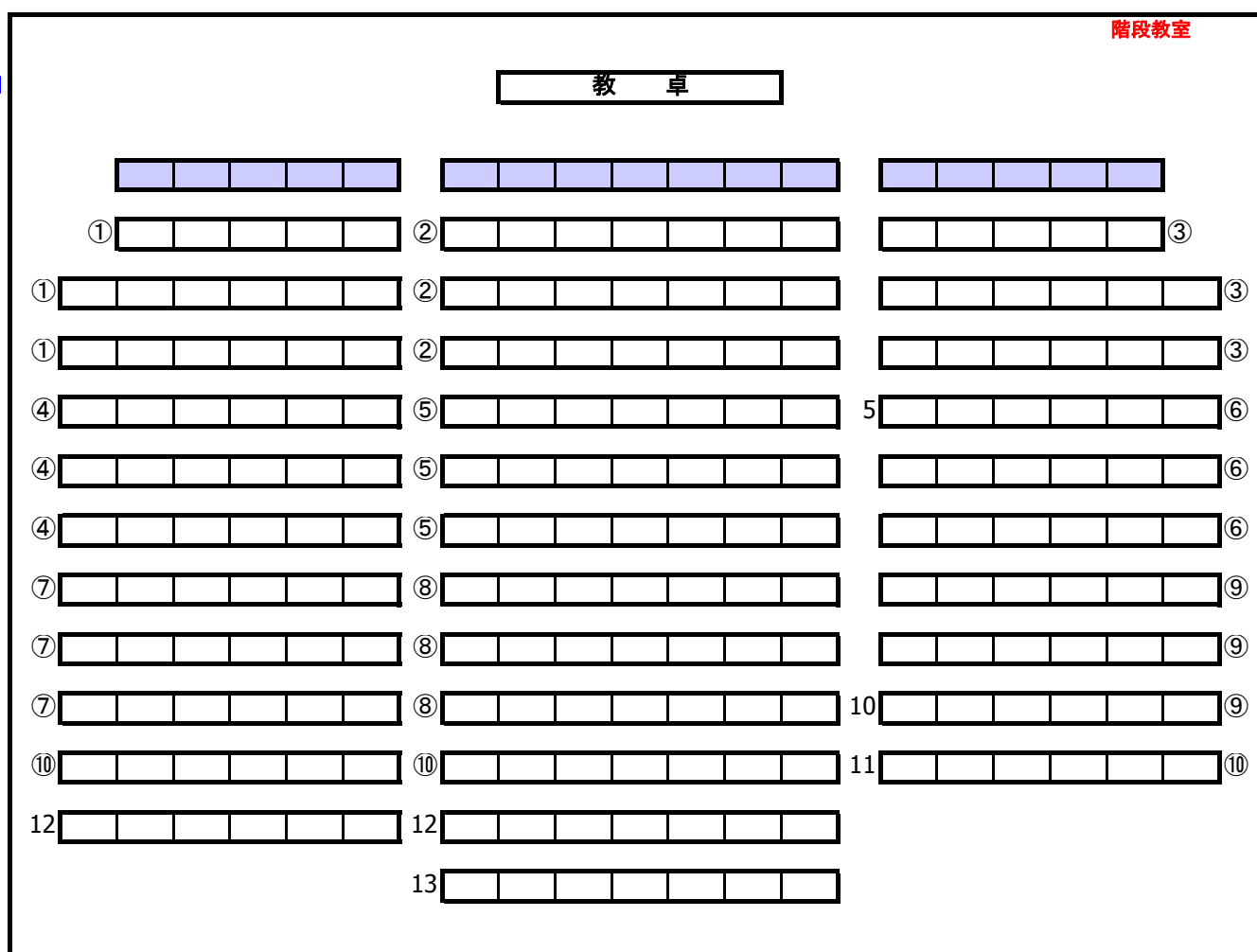
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく列に配置しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

 : 可動機は使用しない。

4/6(月)11:00-11:30
4共31

定員 225

入口



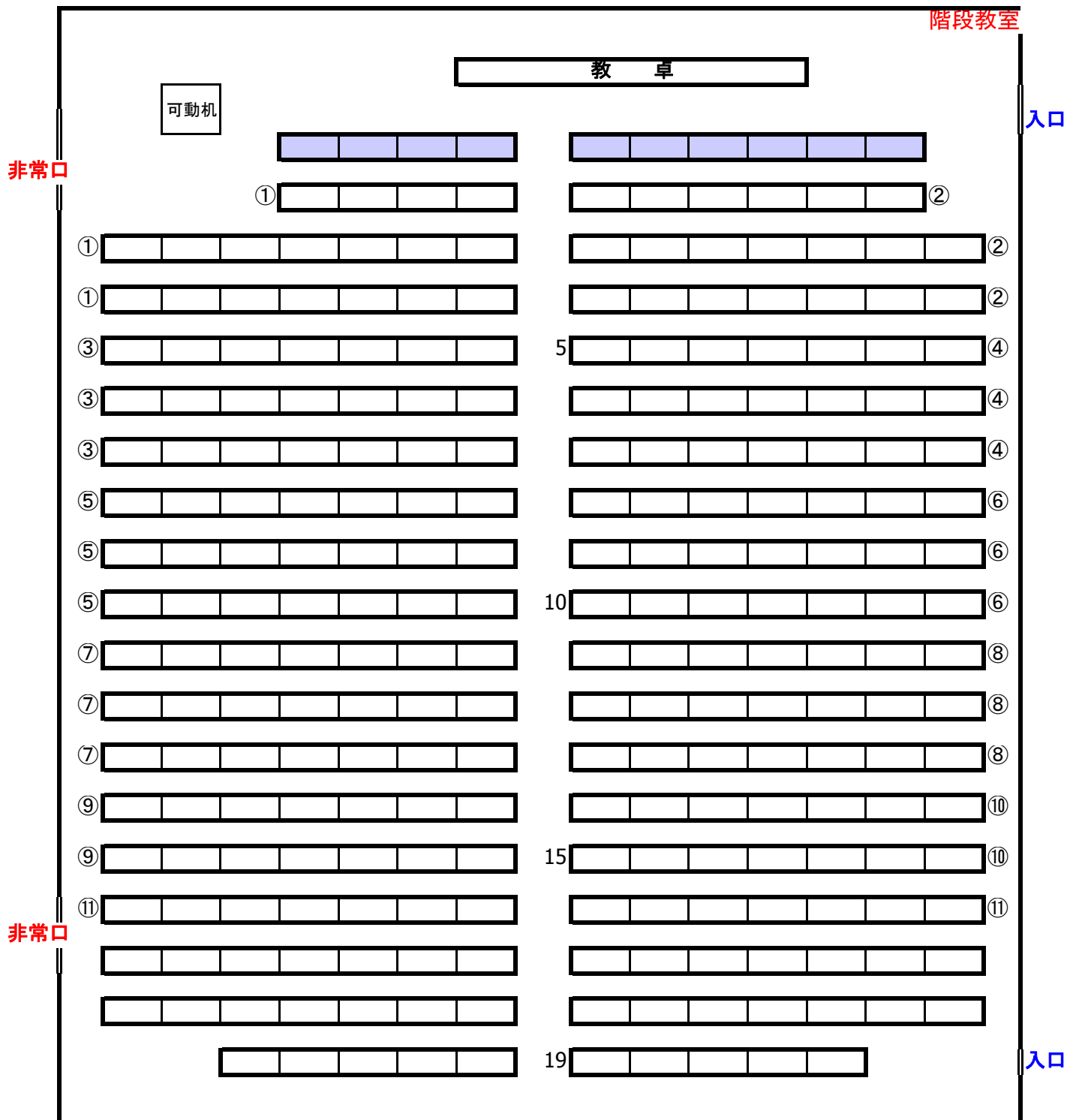
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく列に配置しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

■:基本、可動機は使用しないが、足りない場合は使用することもあり。
使用した場合は、あっぱくん運搬責任者が学生を担当する。

非常口

4/6(月)15:30-16:00
4共11

定員 254



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく列に配置しています。

数字は、机の列番号を意味しています。

■:基本、可動機は使用しないが、足りない場合は使用することもあり。

使用した場合は、あっぱくん運搬責任者が学生を担当する。

4/6(月)15:30-16:00

4共21

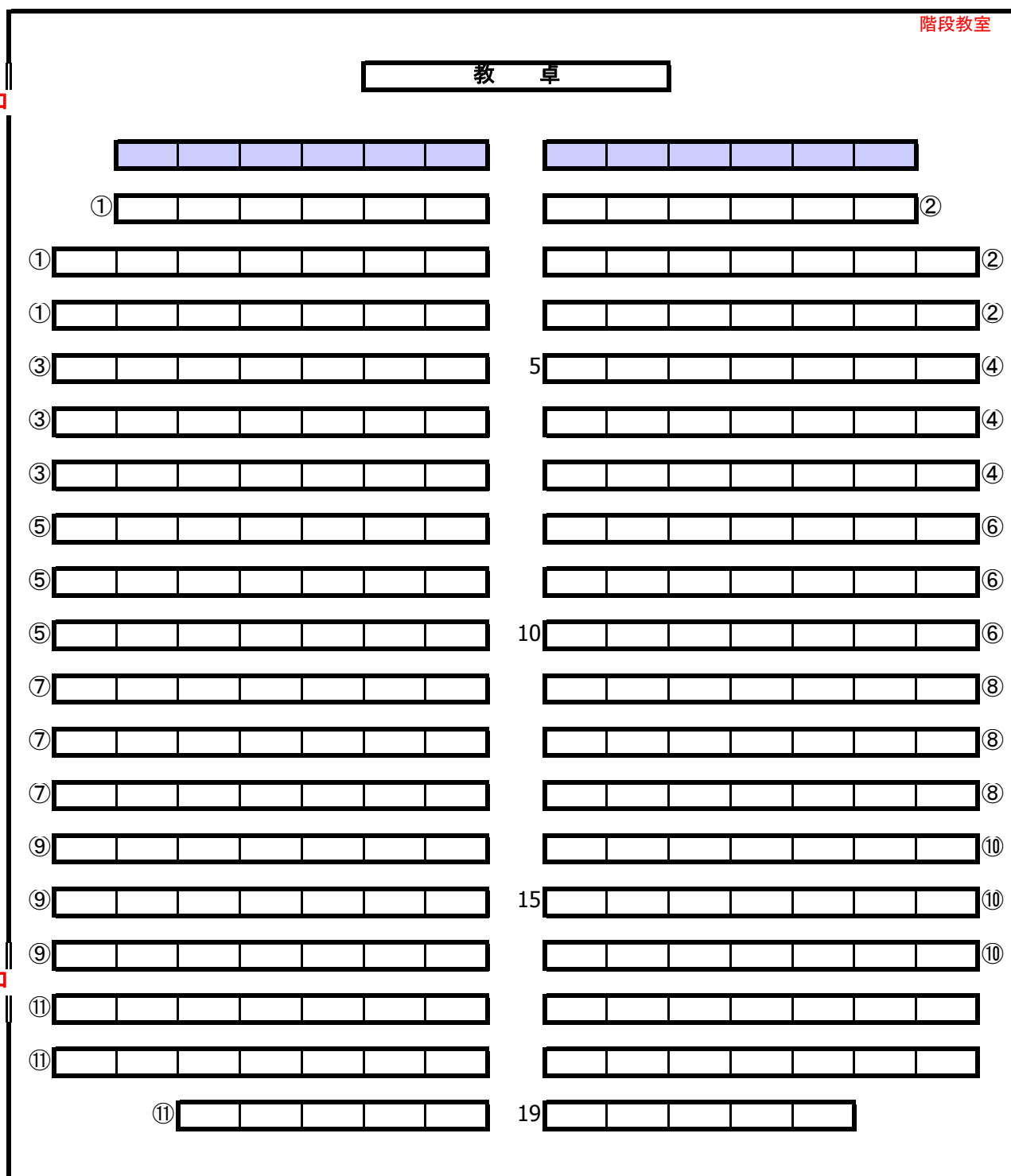
定員 258

階段教室

非常口

入口

教 卓



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく列に配置しています。

数字は、机の列番号を意味しています。

■:基本、可動機は使用しないが、足りない場合は使用することもあり。

使用した場合は、あっぱくん運搬責任者が学生を担当する。

4/6(月)15:30-16:00

4共30

定員 376

階段教室

非常口

入口

非常口

入口

教 卓		
①	②	③
①	②	③
①	②	③
④	⑤	5 ⑥
④	⑤	⑥
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨
⑦	⑧	⑨
⑦	⑧	10 ⑨
⑩	⑪	⑫
⑩	⑪	⑫
⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮
⑬	⑭	15 ⑮
⑬	⑭	⑮
⑯	⑰	⑱
⑯	⑰	⑱
⑯	⑰	⑱
⑯	⑰	20 ⑱

非常口

○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく列に配置しています。

数字は、机の列番号を意味しています。

: 可動机は使用しない。

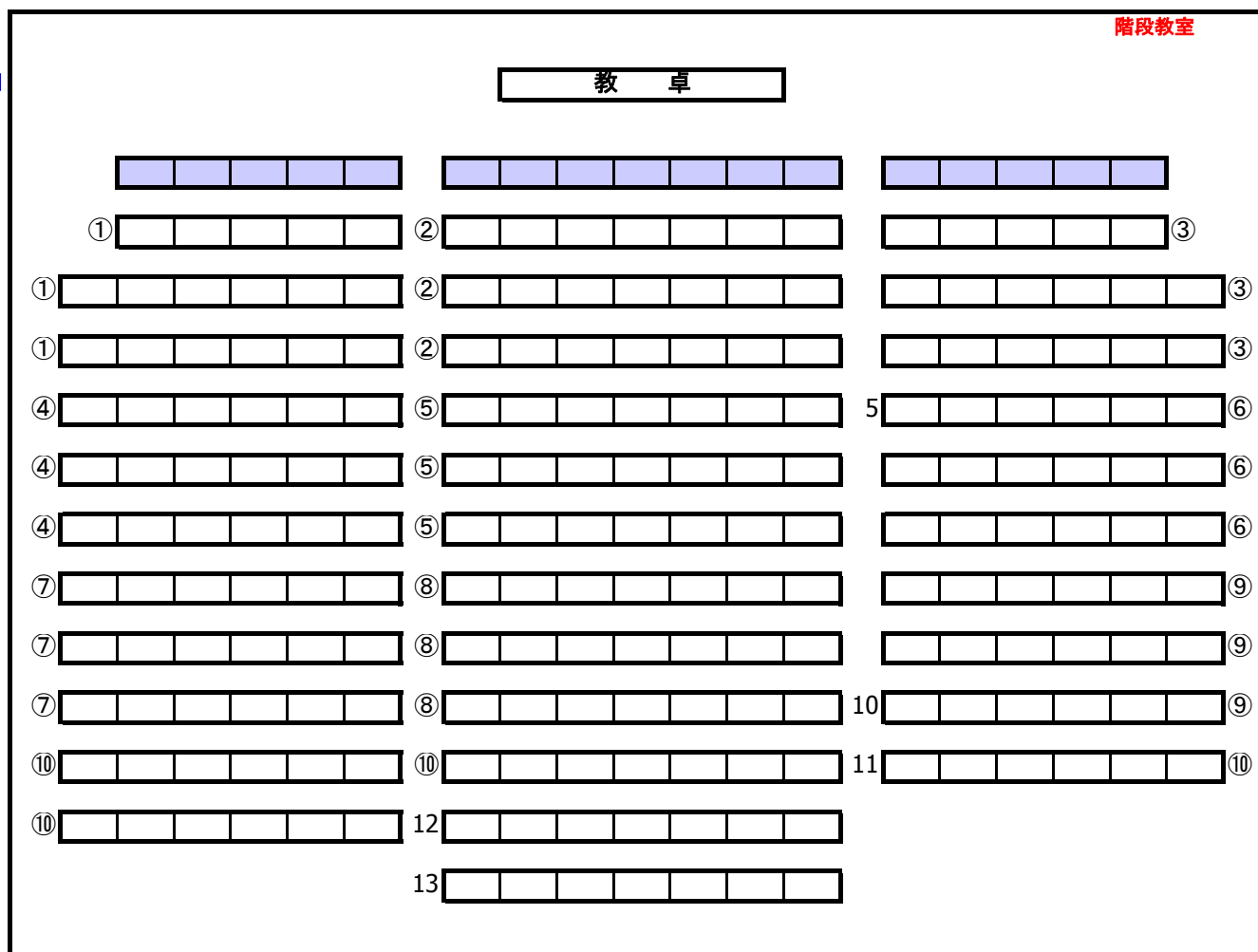
4/6(月)15:30-16:00
4共31

定員 225

入口

階段教室

非常口



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく列に配置しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

■:基本、可動机は使用しないが、足りない場合は使用することもあり。
使用した場合は、あっぱくん運搬責任者が学生を担当する。

非常口

X. 体調不良、怪我など

4 共 14(1F)は、スタッフの控室兼、救命講習会中の救護室にしております(救急箱あり)。

慣れない環境で、緊張状態の中、長時間に渡るガイダンスを受けています。講習会中、もし気分が悪い学生が出ましたら、無理に講習を継続させる必要ありません。疲れる学生も出るかもしれません。そのような場合は、座席で休むように伝えたり、その学生のみ講習会を中断させて 4 共 14(1F)へ誘導していただいても結構です。

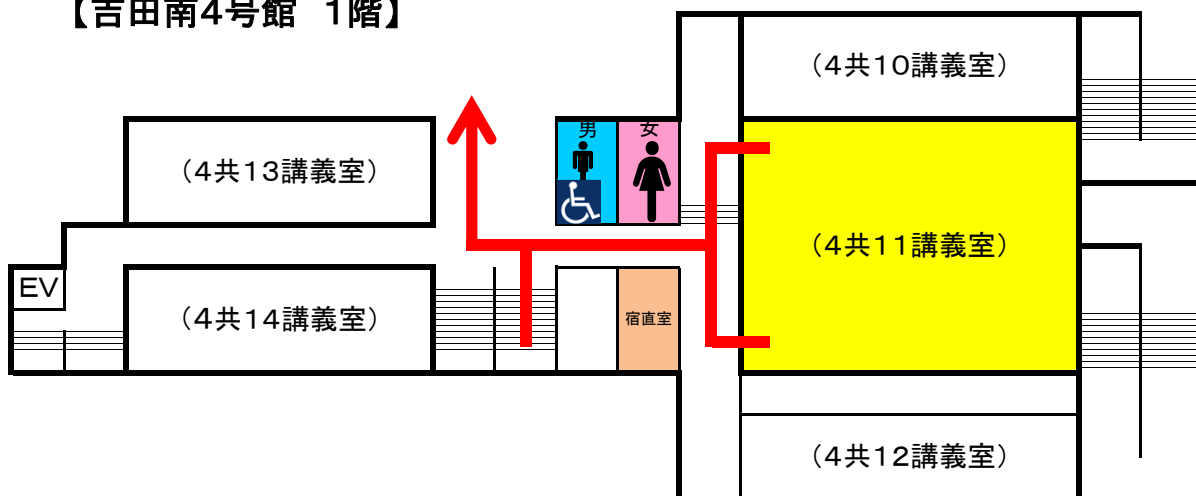
講習会中盤に、2 人一組になって胸骨圧迫の交代の練習をする場面がありますが、ここで学生同士がぶつかる可能性があります。インストラクターが移動の向きを指示しますが、万が一けがをした場合は、その学生のみ講習会を中断させて 4 共 14(1F)へ誘導して下さい。

XI. 地震・火災等避難方法

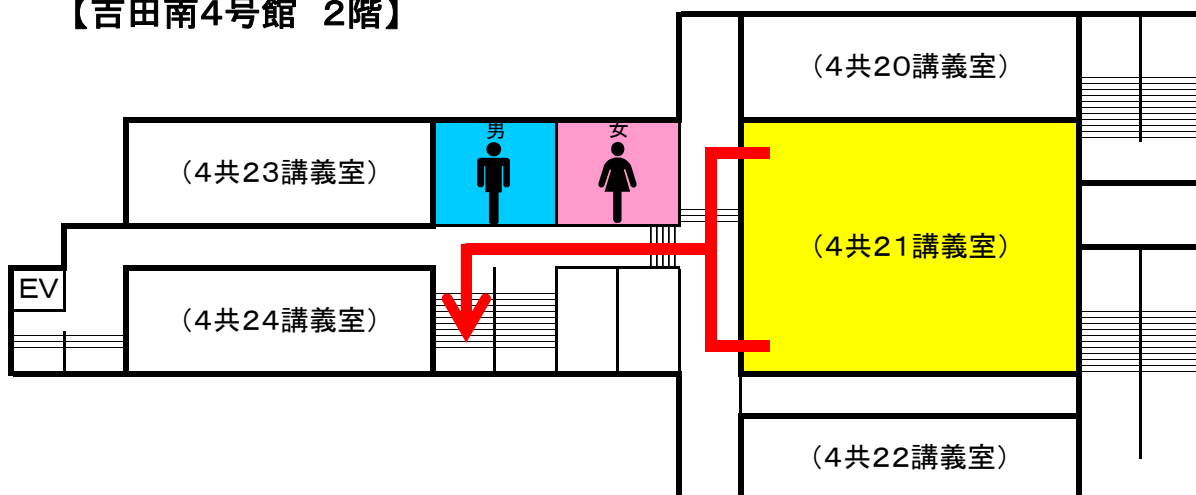
万が一、講習会中に地震・火災等の緊急事態が行った場合は、インストラクターの指示に従い各部屋の非常口(4 共 30、4 共 31 は東側(窓側))から避難するよう学生を誘導して下さい。各部屋の配置図に赤字で「非常口」と記載しております。

吉田南4号館 避難経路図

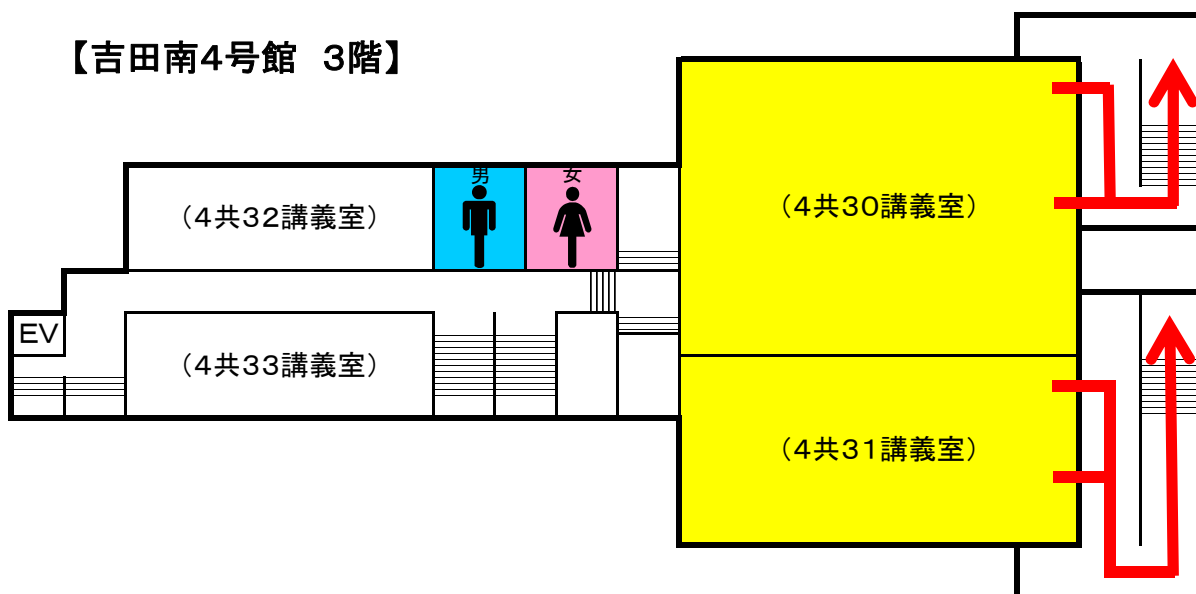
【吉田南4号館 1階】



【吉田南4号館 2階】



【吉田南4号館 3階】



H27 年度新入生 3000 名への救命講習会の計画立案、運営、サポートスタッフ手順書作成は、救命救急講習 ProjectTEAM メンバーが行いました。

【救命救急講習 ProjectTEAM メンバー】

チームリーダー	馬場正昭（国際高等教育院・教授）
サブリーダー	黒木裕士（医学研究科・人間健康科学系専攻・教授）
チームメンバー	川村 孝（医学研究科・健康科学センター長・教授）
チームメンバー	石見 拓（医学研究科・健康科学センター・教授）
チームメンバー	小池 薫（医学研究科・初期診療・救急医学分野・教授）
チームメンバー	内藤知佐子（医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター・助教）
チームメンバー	田中真介（国際高等教育院・准教授）
コーディネーター	西山知佳（医学研究科・人間健康科学系専攻・講師）